HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.30

HP Deployment Managementユーザーガイド

ドキュメントリリース日:2014年9月 (英語版) ソフトウェアリリース日:2014年9月





保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。 ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピュー ターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許 諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の登録商標です。 Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。 UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。 http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

次の表に、最後にリリースされたエディション以来、このドキュメントに加えられた変更点を示します。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- ・ サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
 新田子供会社
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ・ 10000トリエアカスタマーとの意見受け
 ・ ソフトウェアトレーニングの検索と登録

ー部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLはhttp://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jspです。

目次

第1章:はじめに	7
HP Deployment Management について	7
HP Deployment Managementプロセスの概要	7
HP Deployment Managementの用語と概念	10
標準インタフェース、PPM Workbench、HP Deployment Management	
パッケージとオブジェクトタイプ	11
ワークフローとワークフローステップ	
リリース	14
HP Deployment Managementの環境	14
HP Deployment Managementの統合	
関連ドキュメント	17
第2章:パッケージについて	
パッケージについて	18
標準 インタフェースのパッケージ	21
「パッケージ詳細]ページの[ヘッダ] セクション	
[パッケージ詳細] ページの[メモ] セクション	
PPM Workbenchのパッケージ	
[パッケージ] ウィンド ウの [パッケージ情報] セクション	25
[パッケージ] ウィンド ウの [ステータス] タブ	
明細実行ログへのアクセス	
パッケージ実行履歴へのアクセス	
グラフィックビュー	
明細の権限の表示	
明細のトランザクション履歴の表示	
決定の詳細の表示	
ワークフローステップ情報のURLの表示	
[パッケージ] ウィンド ウの [メモ] タブ	
[パッケージ] ウィンド ウの [参 照] タブ	
参照リレーションシップ	32
先行タスクリレーションシップ	

後 続 タスクリレーションシップ	37
第3章:パッケージの作成	
パッケージ作成の概要	
パッケージを作成する前に	
ワークフローの選択	
環境の確認	
オブジェクトタイプの確認	
オブジェクトタイプの表 示	
パッケージの作成	44
PPM Workbenchを使ったパッケージの作成	
既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成	46
パッケージからの参照としてのパッケージの作成	
リクエストからの参照としてのパッケージの作成	
パッケージの一 般 情 報 の入 力	
パッケージへの明細の追加	51
パッケージへのメモの追加	54
パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加	55
パッケージ参照としての添付ファイルの追加	56
パッケージ参照としての既存パッケージの追加	
パッケージ参照としての新規パッケージの追加	59
パッケージ参照としてのプログラムの追加	60
パッケージ参照としてのプロジェクトの添付	62
リリースを参照として追加する	
パッケージ参照としての既存リクエストの追加	64
パッケージ参照としての新規リクエストの追加	65
パッケージ参照としてのタスクの追加	67
パッケージ参照としてのURLの追加	68
パッケージの送信	69
第4章:パッケージの処理	71
パッケージ処理の概要	71
標 準 インタフェースを使ったパッケージの処 理	72
標 準 インタフェースでのパッケージの開 始	
[パッケージの検索]ページからのパッケージの開始	72
- [マイパッケージ] ポートレットからのパッケージの開始	72
通知リンクを使ったパッケージの開始	73

標 準 インタフェースでのパッケージの承 認	73
標 準 インタフェースでのパッケージへのメモの追加	75
標準 インタフェースでのパッケージへの参照の追加	
参照としての添付ファイルの追加	76
パッケージ参照としての既存パッケージの追加	
パッケージ参照としての新規パッケージの追加	79
パッケージ参照としてのプログラムの追加	
パッケージ参照としてのプロジェクトの添付	
パッケージ参照としてのリリースの追加	82
パッケージ参照としての既存リクエストの追加	83
パッケージ参照としての新規リクエストの追加	
パッケージ参照としてのタスクの追加	
パッケージ参照としてのURLの追加	88
PPM Workbenchを使ったパッケージの処理	
PPM Workbenchからのパッケージの開始	
パッケージのステータスの確認	
「適格」なステップの実行	
ワークフローステップの処理	91
意思決定ワークフローステップの実行	92
実行ワークフローステップの実行	94
メモの追加	
参照の追加、更新、削除	
参照の追加	
参照リレーションシップの更新	
参照の削除	
進行中のパッケージへのパッケージ明細の追加	
第5章: パッケージの管理	
HP Deployment Managementでのパッケージの管理	
パッケージのマージ	100
新担パッケージグループの作成	102
	104
ハッケーンの削除	
パッケージ明細のキャンセル	
ドキュメントのフィードバックを送信	

第1章:はじめに

- 「HP Deployment Managementについて」(7ページ)
- •「HP Deployment Managementプロセスの概要」(7ページ)
- 「関連ドキュメント」(17ページ)

HP Deployment Management について

HP Deployment ManagementはHP Project and Portfolio Management Center (PPM Center) の一部で あり、ソフトウェアコード、設定、コンテンツの移行とデプロイを自動化する製品です。HP Deployment Managementでは、これらのオブジェクトが複数のパッケージに分けられ、HPの設定ワークフローでモデル 化されたビジネスプロセスに沿ってルーティングされます。ワークフローにより、各パッケージが必要なステップ (システムの構築、テスト、品質保証、ステージング、最終的なデプロイ)を自動的に経て進みます。

HP Deployment Managementでは、各パッケージで必要なアプリケーションコンポーネント (XMLコンテン ツ、HTMLファイル、Java™プログラム、Oracle® アプリケーションの設定など)が自動的にデプロイされま す。たとえば、HP Deployment Managementを開発環境に接続すると、バージョン制御リポジトリから Javaファイルがコピーされ、それらのファイルが品質保証環境に転送されます。次に、Javaコンパイラを 使ってすべてのファイルがコンパイルされ、単一のJavaプログラムにパッケージ化されます。カスタマはビルト インのスケジューラを使用してデプロイをスケジュールできます。HP Deployment Managementによって、 パッケージ情報、改変されたアプリケーションコンポーネント、取得済みの承認、実行したデプロイなど、 すべてのアクティビティの監査履歴が保持されます。

HP Deployment Managementプロセスの概要

HP Deployment Managementは、ミッションクリティカルなアプリケーションに対するソフトウェアの変更をデプ ロイおよび監査するためのエンタープライズアプリケーションです。デプロイを正常に実行するために必要な すべての情報(移行する環境やオブジェクトに関する情報など)が、「パッケージ」という単一の論理ユニッ トに収集されます。

パッケージはHP Deployment Managementにおける基本の作業単位です。パッケージは、ビジネスワークフローを通して処理されるオブジェクトで構成されます。そのため、ソフトウェアの変更を正常に行うことができ、トラッキングが容易になっています。





パッケージはオブジェクトのグループで構成され、それぞれがオブジェクトタイプに属しています。各オブジェクトタイプは、パッケージに必要な情報や受け入れ可能な追加情報を定義する一連のパラメータに関連付けられています。

パッケージの詳細については、「パッケージについて」(18ページ)を参照してください。

たとえば、[ファイル移行] オブジェクトは、環境間でファイル(オブジェクト)をコピーする標準のオブジェクトタイプです。

図 1-2. パッケージ



各 パッケージ明細は個別に操作できますが、パッケージ明細およびオブジェクトのグループは論理ユニット として処理やトラッキングをまとめて行います。パッケージの処理方法は、適用する個々のワークフローに よって異なります。「図1-3.[パッケージ]ウィンドウのサンプルパッケージ」(8ページ)に、パッケージ Workbenchの[パッケージ]ウィンドウのサンプルパッケージを示します。

図 1-3. [パッケージ] ウィンド ウのサンプルパッケージ

Ø パッケージ: 30015						
「バッケージ情報――						
パッケージ番号: 3	30015	パッケージ グル	,ープ: 🔳	作成者:	Admin User	
	oath test			作成日時:	2013/04/12	17
ワークフロー: ((REFERENCE) 開	発->テスト->本番		パッケージ ステータス:	新規	
■ アサインされたユーザ: A	Admin User	上 優新	先度:低	上位:		
アサイン先グループ:		11日 パッケージ タ	ヌイブ カスタマイズ 🛛 💌	優先度シーケンス:	50	
達成率 (%): 0)					
パッケージ明細 ステータン	ス メモ 巨 参照	ユーザ データ				
シーケン オブジョ	ェクトタイプ 7	アプリケーション	1		2	
1 ファイルク	7ライアント (グ	なし) (Client File Name:	Sub Pat	h:	File Type:
2 ファイル移	衍 (7	ະບ)	File Location: サーバ	Sub-Pat	h: test	File Name
<u></u>	新規(1月2日 「一月細の編	集 明細のコピー 明細	の肖耶余		×
送信				0)K 保存	キャンセル
準備完了						

ワークフローは、パッケージに関連付けられているビジネスプロセスです。ワークフローは、パッケージ内のオ ブジェクトが従うパスを定義する一連の論理ステップで構成されています。これらのワークフローの中には、 コードレビューや管理者の承認などの意思決定プロセスもあります。通常、環境間でのオブジェクトの移 行を表す(または実際に実行する)ワークフローステップが1つ以上あります。

「図 1-4. [パッケージ] ワークフロー」(10ページ)では、[テストに移行] ワークフローステップが、環境間でのパッケージオブジェクトの移行を表しています。[デザインレビュー] および [評価] ワークフローステップは、ビジネスパッケージ関連の意思決定です。

図 1-4. [パッケージ] ワークフロー



HP Deployment Managementの用語と概念

- 「標準インタフェース、PPM Workbench、HP Deployment Management」(10ページ)
- 「パッケージとオブジェクトタイプ」(11ページ)
- 「ワークフローとワークフローステップ」(13ページ)
- 「リリース」(14ページ)
- •「HP Deployment Managementの環境」(14ページ)
- •「HP Deployment Managementの統合」(16ページ)

標準 インタフェース、PPM Workbench、HP Deployment

Management

HP Deployment Managementでは、パッケージの操作を2つのインタフェースで行います。標準インタフェー スには、パッケージの詳細ページがあります。PPM Workbenchには、パッケージWorkbenchがあります。こ れらの2つのインタフェースには共通する機能もありますが、パッケージWorkbenchにはパッケージの詳細 ページにはない機能があります。 パッケージWorkbenchとパッケージの詳細ページの主な違いとして、パッケージWorkbenchではパッケージ 明細の追加とパッケージの送信を行うことができます。詳細ページからは、パッケージ明細の追加やパッ ケージの送信は行えません。

エンジニアや開発者はパッケージWorkbenchを使って、パッケージを作成および送信できます。パッケージ の作成と送信には、専門知識が必要です。場合によっては、本番サーバのパスワードが必要となりま す。このような情報の中には、リソースがパッケージに関する意思決定を行うときに使用できないものもあ ります。また、パッケージに関する意思決定を行うすべてのユーザがPPM Workbenchにアクセスする必要 があるわけではありません。

注: ソフトウェアおよびアプリケーションの変更をデプロイするためのパッケージの作成方法および送信 方法については、「パッケージの作成」(38ページ)を参照してください。

パッケージの詳細ページからは、必要な権限があれば、ワークフローを通してパッケージを処理できます。 パッケージにメモや参照を追加したり、パッケージのステータスを決定したりすることが可能です。ただし、 詳細ページからは、パッケージの変更や削除はできません。

注: HP Deployment Managementでパッケージを操作するために必要なライセンスとアクセス許可の 詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。ワークフローを通して パッケージを処理する方法については、「パッケージの処理」(71ページ)を参照してください。パッケー ジの操作 (コピー、キャンセル、マージなど)方法については、「パッケージの管理」(100ページ)を参照 してください。

パッケージとオブジェクトタイプ

パッケージはHP Deployment Managementにおける基本の作業単位です。パッケージは、ビジネスワークフローを通して処理されるオブジェクトで構成されます。

各 パッケージ明細は個別に操作できますが、パッケージ明細およびオブジェクトのグループは論理ユニット として処理やトラッキングをまとめて行います。パッケージおよびパッケージ明細の処理は、そのパッケージに 指定されているワークフローによって大きく異なります。「図 1-5. [パッケージ] ウィンドウのサンプルパッケージ 」(12ページ)に、[パッケージ] ウィンドウのサンプルパッケージを示します。

図 1-5. [パッケージ] ウィンド ウのサンプルパッケージ

🕼 パッケージ: 30015					_ 🗆 🗵
「バッケージ情報					
パッケージ番号: 30015	パッケージ グル	ープ: 王	作成者:	Admin User	
i税8月: path test			作成日時:	2013/04/12	17
ワークフロー: (REFERENCE) 開	発->テスト->本番	I	パッケージ ステータス:	新規	
アサインされたユーザ: Admin User	▲ 優分	先度: 低	上位:		
アサイン先グループ:		イブ: カスタマイズ 🔹 💌	優先度シーケンス:	50	
達成率 (%): 0					
/ パッケージ明細 ステータス メモ (三)参照 (二)	ユーザ データ				
シーケン オブジェクトタイプ フ	アプリケーション	1		2	
1 ファイル クライアント (な	なし) (Client File Name:	Sub Path	n:	File Type:
2 ファイル移行 (な	ະບ) F	File Location: サーバ	Sub-Pat	h: test	File Name
4					
		L L	1		ات
	明細の編	集明細のコピー明細	の削除		
送信			C)K 保存	キャンセル
 準備完了					

各オブジェクトはオブジェクトタイプに属しています。オブジェクトタイプには、環境間で移動するときの動作 を決定する関連コマンドがある場合もあります。コマンドを使って、各オブジェクトタイプで移行が何を意 味するかを定義します。たとえば、[ファイル]オブジェクトタイプではファイルがコピーされるだけでかまいませ んが、[データベーススクリプト]オブジェクトタイプではファイルのコピーと送り先データベースに対する実行が 必要です。

オブジェクトタイプはユーザによる設定が可能です。HP Deployment Managementおよび機能拡張にはあらかじめ定義されたオブジェクトタイプのライブラリもあり、これらは次のカテゴリに分類されています。

- 標準オブジェクト:標準オブジェクトはあらかじめ定義されたオブジェクトタイプであり、HP Deployment Managementで用意されているか、HP Deployment Managementの機能拡張として提供されていま す。これらのオブジェクトタイプには、重要なアクションを管理する基本機能が備わっています。たとえ ば、ファイルシステムレベルのオブジェクトやオペレーティングシステムのコマンドの移行や実行、Oracleア プリケーションインスタンスへのパッチの適用などです。[ファイル移行]オブジェクトは、環境間でファイル をコピーする標準のオブジェクトタイプです。もっと複雑な標準オブジェクトタイプには[SQLスクリプト]が あります。これはファイルをコピーするだけではなく、送り先データベースに対してスクリプトを実行しま す。
- カスタムオブジェクト: ソフトウェア環境やデプロイ管理プロセスの要件を満たすには、多くの場合、標準オブジェクトタイプをカスタマイズしたり、まったく新しいオブジェクトタイプを作成したりする必要があります。カスタムオブジェクトカテゴリは、これらのカスタマイズしたオブジェクトタイプと、HP Deployment Managementおよび機能拡張に用意されているオブジェクトタイプを区別するためにあります。このようにカスタマやコンサルタントが設計したオブジェクトタイプは、サードパーティツールや社内製品の統合によく使用します。
- PPM Centerマイグレータオブジェクト: PPM Centerのマイグレータオブジェクトは、設定情報のエクス

ポートおよびインポート機能を備えたオブジェクトタイプです。 マイグレータオブジェクトには次のような用途 があります。

- 異なるPPM Centerインスタンスの間で設定情報を転送する
- PPM CenterのデータベーススキーマからXMLファイルに情報を抽出する
- XMLファイルからデータベーススキーマに情報を読み込む

つまり、デプロイ管理の標準のテストプラクティスを用いて、ワークフローを通してパッケージを処理し、設定情報を移行することが可能です。

ワークフローとワークフローステップ

ワークフローは、パッケージ内のオブジェクトが従うパスを定義するー 連の論理ステップで構成されています。ワークフローの設定とルーティングはカスタマイズできます。また、ワークフローエンジンでは、ほぼすべてのビジネスプラクティスを処理できます。そのため、ユーザが業務を遂行するために新しいー連のプロセスの採用を強要するのではなく、既存のプロセスを自動化するワークフローを生成できます。

ワークフローステップの使用法は、機能の承認から実際の移行までさまざまです。たとえば、移行ステップでは、指定したオブジェクトが送り元環境から送り先環境へ自動的に移動されます。

ワークフローステップは、完全なワークフローを形成するために互いに連結されるイベントです。HP Deployment Managementでは、次の4タイプのワークフローステップを使用します。

- 意思決定ワークフローステップ。
 意思決定ワークフローステップでは、ユーザまたはユーザグループが結果(作業の承認やレビューの完了など)を指定する必要があります。
- 実行 ワークフローステップ。実行 ワークフローステップでは、システムによってアクションが実行され、ステップの結果が更新されます。アクションはトークン値の計算のように単純な場合も、ファイルのコピー、プログラムの実行、Webページの更新のように複雑な場合もあります。
- 条件ワークフローステップ。条件ワークフローステップは、複雑なワークフロー処理に使用する論理ス テップです。たとえば、前提条件の各ステップが完了した場合にのみワークフローの先に進むことを許 可するステップは条件ステップです。
- ・サブワークフローワークフローステップ。サブワークフローワークフローステップは、サブワークフローとして使用できるようになっているワークフロー全体を指します。サブワークフローを使うことで、あらかじめ定義された手順を含むビジネスプロセスのモデル化に要する時間を短縮できます。

「図 1-6. [パッケージ] ワークフロー」(14ページ)に、サンプルのパッケージワークフローを示します。

図 1-6. [パッケージ] ワークフロー



リリース

HP Deployment Managementでは、リリースを設定して、一緒にデプロイする必要があるパッケージと関連リクエストをまとめることができます。たとえば、XYZ社というソフトウェア会社が5か月後に製品の更新リリースを予定しているとします。同社は製品を確実に投入できるように、HP Deployment Managementを使用してリリースを作成し、元のコードに加えたすべての変更をトラッキングできるようにします。

開発者がパッケージを完成させると、そのパッケージがリリースに取り込まれ、一緒に処理されます。必要な変更がリリースにまとめられているため、製品のステータスと投入に向けた進捗状態をすばやく簡単に評価できます。

リリースの詳細と、作成および設定方法については、『HP Deployment Management Configuration Guide』を参照してください。

HP Deployment Managementの環境

HP Deployment Management環境は、単一の論理グループを表すサーバ、クライアント、データベース、 ファイルシステムデータの一意の組み合わせで構成されています。





環境サーバとは、その環境の主要ホストマシンです。このマシンでは、プラットフォームタイプ(例:UNIX®、 Windows®)を問いません。通常、サーバはUNIXマシンであり、この環境のデータベースもホスティングして います。

環境のクライアントはリモートクライアントマシンであり、指定した環境の識別も行います。ユーザがクライア ント/サーバ環境でUNIXとWindows Serverを併用したマルチプラットフォーム開発を行っている場合、クラ イアントは決められているのが通常です。クライアントは、ユーザがアクセスするクライアントコードを格納す るファイルサーバです。トランザクションフォームなどの多くのプログラムには、クライアントコンポーネント(例: ユーザインタフェースコード)とサーバコンポーネント(例:データベースオブジェクト)の両方があります。「図 1-8. サンプル環境」(16ページ)に、[環境] ウィンドウに表示される情報の例を示します。

図 1-8. サンプル環境

🕼 環境 : KINTANA_SERVER						×
環境名: KINTANA_SERVER	l	説明: ーシ	ョン サーバをホストして	いるコンビュー	-タとデータベー	-ス
場所:		有効: ○ は	<u>ن</u>	● いいえ		
ホスト アプリケーション 拡張デー	-タ「オーナーシップ「ユーザ アクセス「ユー	ザデータ				
サーバ					有効なサーバ	
名前:		タイプ: UND	X (Generic)	~		
ユーザ名:	パス5	フード: 🔽		C		
NT ドメイン: 🔽	基本	\$パス:				
接続プロトコル: Tel	Inet 🔽 転送プロ	אנכא FTP		-		
ストリーム エンコーディング: Big	j 5			-		
クライアント					。 有XU/& クライアノド	
名前: 📃		タイプ: しいり	X (Generic)	~		
ユーザ名:	パス5 パス5	フード: 🔽		0		
NT ドメイン: 🔽	基本	\$パス:				
接続プロトコル: Tel	Inet 🔽 転送プロ	Haili: FTP		~		
ストリーム エンコーディング: Big	j 5			~		
データベース					。 自XJJなナータヘー。 	^
サーバ タイプ: Oracle Server				~		
ホスト名:	接続文書	字列:				
ユーザ名:	パスワ	ν− K: [С		
Oracle SID:	ボート	番号:				
DB リンク:	バージ	ילבע				•
確認				OK 保	字 キャンセノ	1
·						_

HP Deployment Managementの統合

バージョン制御との統合

HP Deployment Managementでは、標準のバージョン制御システムすべて (RCS、SCCS、PVCS、 ClearCase、CCC/Harvest、Visual SourceSafeなど) と完全に統合されています。HP Deployment Managementアウトバウンド APIには、デプロイ時のチェックイン、チェックアウト、プロモーションの全機能が 備わっています。

ファイルシステムオブジェクトを新しい環境にデプロイすると同時に、バージョン制御で更新できます。これによって、バージョン制御リポジトリ、物理環境、HP Deployment Managementのワークフローが同期されます。

HP Demand Managementとの統合

HP Deployment Managementは、アプリケーション環境に加えた変更の物理デプロイを管理します。その ほかの重要な機能として、システムの安定性に関する問題(リクエスト)の収集と分析も行われます。HP Deployment ManagementがHP Demand Managementと統合されているのは、このリクエスト収集を容易にするためです。

HP Deployment Managementと同様に、HP Demand Managementもワークフローベースのシステムです。 送信からクローズまで、リクエストの監査履歴を完全にトラッキングできます。HP Demand Managementと HP Deployment Managementは緊密に統合されているため、リクエストからパッケージを自動的に生成で きます。

パッケージが完成すると、リクエストは自動的に更新されます。この閉ループ型の統合により、問題のス テータスを一貫して把握できるほか、複数のアプリケーションにわたって冗長なデータを保持する必要があ りません。

HP Deployment Managementの機能拡張によるサードパーティアプリケーションとの統合

HP Deployment Managementの機能拡張はアプリケーション固有のモジュールであり、オブジェクト、ファイル、パッチのデプロイおよびデプロイ後のステップを自動化します。ExtensionsはHP Deployment Managementと完全に統合されており、さまざまなエンタープライズアプリケーションの管理に適した総合ソリューションとなっています。次の機能拡張があります。

- HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite
- HP Deployment Management Extension for Oracle Technology
- HP Deployment Management Extension for SAP Solutions

関連ドキュメント

次のドキュメントに関連情報があります。

- [HP Deployment Management Configuration Guide]
- 『コマンド、トークン、妥当性検証のガイドとリファレンス』
- [Reports Guide and Reference]
- 『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』
- 『HPエンティティガイド』

第2章:パッケージについて

- 「パッケージについて」(18ページ)
- •「標準インタフェースのパッケージ」(21ページ)
- 「PPM Workbenchのパッケージ」(24ページ)
- •「参照リレーションシップ」(32ページ)

パッケージについて

HP Deployment Managementは、ソフトウェアコード、設定、コンテンツの移行とデプロイを自動化する製品です。PPM Workbenchと標準インタフェースにより、これらのオブジェクトがパッケージに分けられ、ビジネスプロセス (ワークフロー) に沿ってルーティングされます。ワークフローによって、各パッケージが必要なステップを自動的に経て進みます。

たとえば、開発環境 (Dev) からテスト環境 (Test) に、オペレーティングシステムのパッチをコピーするとします。オペレーティングシステムのパッチを徹底的にテストした後、本番環境 (Prod) にコピーします。





パッケージはHP Deployment Managementにおける基本の作業単位です。各パッケージはワークフロー (ビジネスプロセス)に従います。ビジネスプロセスと同様に、パッケージに影響する意思決定が行われ、ア クションが実行されます。各意思決定またはアクションがワークフローステップになります。 パッケージに関して意思決定が必要な場合、ワークフローステップを手動で更新して、その意思決定を 反映する必要があります。ただし、一部のアクション(異なる環境間でのファイルの移行など)は自動的 に実行されるように設定できます。環境間でファイルを自動的に移行するワークフローステップを構成する ために必要な基本コンポーネントは次のとおりです。

- パッケージ。ファイルの名前、場所、タイプ、適用するワークフローを定義します。
- ワークフロー。ファイルの移行 (ワークフローステップ)をトリガする条件と、ファイル移行の送り元環境と送り先環境を決定します。

パッケージを作成するとき、そのパッケージが経なければならないステップを定義する単一のワークフローを 割り当てます。「図 2-2. パッケージのワークフローとワークフローステップ」(19ページ)に、次のステップを含む サンプルワークフローを示します。

- パッケージの承認
- 開発からテストへ(移行)
- パッケージのテスト
- テストから本番へ(移行)
- 終了

図 2-2. パッケージのワークフローとワークフローステップ



[パッケージの承認] および[パッケージのテスト] ワークフローステップは、このワークフローにおいて手動で実行する必要があります。[開発からテストへ] および[テストから本番へ] ワークフローステップは自動的に実行されるように設定します。

注: パッケージにワークフローを割り当てるには、ワークフローステップやワークフローの設定方法の知識は不要です。ただし、ワークフロー、ワークフローステップ、環境内の情報にアクセスする方法は理解している必要があります。

「図 2-3. パッケージのまとめ方」(20ページ)では、パッケージWorkbenchに表示されるパッケージはワークフローWorkbenchのワークフローと関連付けられています。移行ワークフローステップは、送り元環境および送り先環境を使って設定されています。環境へのアクセスと設定には、環境Workbenchを使用します。

「図 2-3. パッケージのまとめ方」(20ページ)のパッケージは、1つのパッケージ明細と1つのオブジェクトタイプを 使って設定されています。パッケージ明細に含めることのできるオブジェクトタイプは1つのみです。オブジェク トタイプには、ファイルの名前、場所、タイプ (ASCIIまたはバイナリ)など、ファイル (オブジェクト)を移行す るために必要な情報が含まれています。オブジェクトタイプの定義によっては、追加情報が必要なことが あります。



図 2-3. パッケージのまとめ方

オブジェクトタイプの定義は、オブジェクトタイプWorkbenchで行います。オブジェクトタイプWorkbenchで は、環境間でオブジェクトを移行するために使用するコマンドシーケンスを開いてアクセスできます。これら のコマンドシーケンスの中には、特殊コマンドWorkbenchで定義されている特殊コマンドもあります。

パッケージを作成するには、次の知識が必要です。

- ワークフロー: ワークフローWorkbenchで定義されています。
- •環境:ワークフローステップで指定され、環境Workbenchで定義されています。
- ・オブジェクトタイプ:オブジェクトタイプの定義は、オブジェクトタイプWorkbenchで行います。

HP Deployment Managementでパッケージを操作するために必要なライセンスとアクセス許可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

標準インタフェースのパッケージ

標準インタフェースの[パッケージ詳細] ページでは、パッケージ情報の表示、パッケージへのメモおよび参照の追加、ワークフローを通してのパッケージの処理が可能です。 リクエストの参照として新しいパッケージを追加するときは、PPM Workbenchの[パッケージ] ウィンド ウにはアクセスしません。 この場合、標準インタフェースの[新規パッケージ] ページにアクセスします。

[新規パッケージ] ページで新しいパッケージを作成した場合、そのパッケージは送信可能な完全なもので はありません。この場合、[新規パッケージ] ページが開き、標準インタフェースでパッケージが保存されま す。パッケージを送信するには、PPM Workbenchの[パッケージ] ウィンドウを使ってパッケージ明細を追加 する必要があります。「図 2-4. [パッケージ詳細] ページ」(22ページ)に、標準インタフェースからリクエストへ の参照として作成したパッケージの詳細ページを示します。明細はまだありません。 HP Deployment Managementユーザーガイド 第2章: パッケージについて

図 2-4. [パッケージ詳細] ページ

バッケージ 30030

								保存		Ute	*
ヘッダ											
*パッケージ番号:	30030	パッケージ グループ:			作成者:	Admin User					
識明:	Dev to Test - sql and html File N	Aigration			作成日時	December 10, 2	008				
ワークフロー:	Standard Deployment				ステータス:	進行中					
アサインされたユーザ:		優先度:	Low	~	上位:						
アサイン先グループ:		パッケージ タイプ:	Customization	~	優先度シーケンス:	50					
達成率 (%):	0										
ステータス											
明細の表示: ④ 保留	冒中の明細のみ			ステップの	表示: 🖲 自分のアクシ	ョンを待っ ステップ					
্ ৰণ	くての明細				○ すべてのステ	ップ	リフレッシュ				
表示 すべての明細				適格な	ステップの表示: 期間	Standard Deplo	oyment				
シーケンス	オブジェクト名	オブジェクト タイプ		0	5: QA Test)	0		0		
1	mainpage.html	File Migration			適格						
2	Load_Distribution_Data.sql	File Migration			通行						
すべてチェック	すべてクリア 明認の詳述	目 ログの表示			すべてチェック	すべてクリア	ワークフロー アクション		44 4	•	
メモ											
保存時 に追加されるメモ:											
		~									
		0									
参照											
参照の追加											
新規参照: 添付ファイル	▶ 追加										
保存時に追加される参照:											
	800<	PHER									
								保存		IJŧ	-te

[パッケージ詳細]ページの[ヘッダ] セクション

パッケージの詳細ページの[**ヘッダ**] セクションには、パッケージの作成者、作成日、関連付けられている ワークフローなどの一般情報が表示されます。「図 2-5. [パッケージ詳細] ページのヘッダセクション」(22 ページ)は、一般的なヘッダセクションです。

図 2-5. [パッケージ詳細] ページのヘッダセクション

ヘッダ							
*バッケージ番号: 説明:	30030 Dev to Test - sql and h	tml File N	パッケージ グループ: Aigration			作成者: 作成日時	Admin User December 10, 2008
ワークフロー:	Standard Deployment					ステータス:	進行中
アサインされたユーザ:		- &	優先度:	Low	$\mathbf{\sim}$	上位:	
アサイン先グループ:			パッケージ タイプ:	Customization	~	優先度シーケンス:	50
達咸率 (%):	0						

[パッケージ詳細] ページの[ステータス] セクション

[パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクションには、パッケージの現在のステータスが表示されます。標準 インタフェースでパッケージを最初に作成した時点では、[ステータス] セクションは存在しません。パッケージを送信すると、[ステータス] セクションにパッケージ明細と関連付けられているワークフローのすべての

ステップが表示されます。「図 2-6. [パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクション」(23ページ)に、[パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクションを示します。

図 2-6. [パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクション

ステータス 明細の表示: ④ 保留中の明細のみ 〇 すべての明細	ステップ・	の表示: ④ 自分のアクシ 〇 すべてのステ	ョンを待つ ステップ ップ リフレッショ	X.		
表示 すべての明細	道格7	なステップの表示: 期間	Standard Deployment			
シーケンス オブジェクト名 オブジ	ንェクト タイプ	5: QA Test)	0	0	
1 mainpage.html File M	Migration	適格				
2 Load_Distribution_Data.sql File M	Migration	適格				
すべてチェック すべてクリア 明節の詳算	ログの表示	すべてチェック	すべてクリア	ワークフロー アクション	• •• •	

[パッケージ詳細]ページの[メモ] セクション

[パッケージ詳細] ページの [メモ] セクションには、格納するパッケージ情報を入力するフィールドがあります。[メモ] セクションはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。

「図 2-7. [パッケージ詳細] ページの [メモ] セクション」(23ページ)に、典型的な [メモ] セクションを示します。 すべての「メモ] セクションには、[メモの追加] サブセクションがあります。 リクエスト に対して最初のメモを作成すると、[既存のメモ] セクションが作成されます。

図 2-7. [パッケージ詳 細] ページの [メモ] セクション

۶Ŧ

保存時に追加されるメモ:

[パッケージ詳細]ページの[参照] セクション

[パッケージ詳細] ページの [参照] セクションには、パッケージに関する追加情報があります。たとえば、パッケージにURLを追加したり、パッケージから古いドキュメントを削除したりできます。[参照] セクションはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。パッケージに対し、参照の追加 や削除が可能です。

パッケージに参照を追加するには、[参照の追加] セクションを使用します。保存済みの参照は参照タイ プ別に整理されています。たとえば、保存済みの参照パッケージはすべて [パッケージ] セクションに保存さ れています。一部の参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作成できま す。参照とその機能の依存関係の詳細については、「参照リレーションシップ」(32ページ)を参照してくだ さい。 「図 2-8. [パッケージ詳細] ページの[参照] セクション」(24ページ)に、[パッケージ詳細] ページの[参照] セクションを示します。

図 2-8. [パッケージ詳細] ページの [参照] セクション

参照		
参照の追加		
新規参照: 添付ファイル 🔽 🏄加]	
保存時に追加される参照:		
		Ridda.
	Bak	FIRE

PPM Workbenchのパッケージ

既存のパッケージを表示するには、パッケージWorkbenchを使用します。[パッケージ] ウィンドウからは、 パッケージへのメモおよび参照の追加、ワークフローを通してのパッケージの処理が可能です。パッケージ の作成および送信、ワークフローを通しての処理、キャンセル、削除も、[パッケージ] ウィンドウから行うこと ができます。「図 2-9. [パッケージ] ウィンドウ」(25ページ)に、パッケージの詳細ページを示します。

図 2-9. [パッケージ] ウィンドウ

<i>∲</i> 0 パッケージ: 30015		×
「バッケージ情報		
パッケージ番号: 30015 パ	いケージ グループ: 🔲 🛛	作成者: Admin User
説明: path test		作成日時 2013/04/12 🔟
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->テス	┝->本番 🔳	パッケージ ステータス: 新規
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低. 🔽	上位:
アサイン先グループ: 1	パッケージタイプ: カスタマイズ 💽	優先度シーケンス: 50
達成率 (%): 0		
パッケージ明細 ステータス メモ 巨 参照 ユーザデー	-9	
シーケン オブジェクトタイプ アプリケー	-ション 1	2
1 ファイル クライアント (なし)	Client File Name:	Sub Path: File Type:
2 ファイル移行 (なし)	File Location: サーバ	Sub-Path: test File Name
▲		F
新規明細	明細の編集 明細のコピー 明細の	
		 OK 保存 キャンセル
·		

[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクション

[パッケージ] ウィンドウの[パッケージ情報] セクションには、パッケージの作成者、作成日、関連付けられているワークフローなど、パッケージに関する一般情報が表示されます。[パッケージ情報] セクションはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージとともに保存されます。通常、パッケージを作成するときには、このセクションでいくつかのフィールドを入力する必要があります。「図 2-10. [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクション」(26ページ)に、典型的な一般情報セクションを示します。[パッケージ詳細] ページの [ヘッダ] セクションにある情報は、[パッケージ] ウィンドウの一般情報セクションに表示されます。

図 2-10. [パッケージ] ウィンド ウの [パッケージ情報] セクション

🕼 パッケージ: 30015					<u>- 0 ×</u>
「パッケージ情報					
パッケージ番号: 30015	パッケージ グルー	·7: 🔳	作成者:	Admin User	
I兑8月: path test			作成日時:	2013/04/12	12
ワークフロー: (REFERENCE) 開	発->テスト->本番	E	パッケージ ステータス:	新規	
アサインされたユーザ: Admin User	■ 優先	度 低 💌	上位:		
アサイン先グループ:		ブ カスタマイズ 🔹	優先度シーケンス:	50	
達成率 (%): 0					
/ パッケージ明細 ステータス メモ 巨 参照	ユーザ データ				
シーケン オブジェクトタイプ	アプリケーション	1		2	
1 ファイル クライアント ()	なし) CI	ient File Name:	Sub Path	1:	File Type:
2 ファイル移行 ()	なし) Fil	e Location: サーバ	Sub-Pat	h: test	File Name
I ← [
		1			
		- 明細のコピー 明細			
送信			C)K 保存	キャンセル
 準備完了					

[パッケージ] ウィンドウの[パッケージ明細]タブ

[パッケージ明細] タブには、パッケージに関連付けられているパッケージ明細が表示されます。パッケージ 明細により、環境間で移行するオブジェクトが定義されます。パッケージ明細はそれぞれ1つのオブジェクト (ファイル)を定義します。通常、オブジェクト (ファイル)は、オブジェクトタイプ ([ファイルクライアント > クライ アント]、または [ファイル移行])、ファイル名、場所、ファイルタイプによって定義されます。1つのパッケージ 明細に複数のオブジェクトを定義することはできません。「図2-11. [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明 細] タブ」(27ページ)に、パッケージ明細が表示されている [パッケージ明細] タブを示します。

図 2-11. [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明 細] タブ

🕼 パッケージ: 30015						- D ×
「パッケージ情報――						
パッケージ番号:	30015	パッケージ グル	レープ: 🔳	作成者:	Admin User	
	path test			作成日時:	2013/04/12	12
ワークフロー: ((REFERENCE)	開発->テスト->本番	E	パッケージ ステータス:	新規	
アサインされたユーザ: 🛛	Admin User	 Land (g	先度: 低	上位:		
アサイン先グループ:		 団 パッケージ	タイプ: カスタマイズ 🔹	優先度シーケンス:	50	
達成率 (%): [(0					
/ パッケージ明細 ステータ	2、 メモ 画 参照	ユーザ データ				
シーケン オブジ	ェクトタイプ	アプリケーション	1		2	
1 ファイルク	クライアント	(なし)	Client File Name:	Sub Pati	h:	File Type:
2 ファイル移	§行	(なし)	File Location: サーバ	Sub-Pat	h: test	File Name
•						Þ
			「集」 明細切コピー 明和			
送信				(DK 保存	キャンセル
 準備完了						

[パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ

[パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブには、パッケージの現在のステータスが表示されます。パッケージを 最初に作成した時点で、[ステータス] タブにパッケージ明細が表示されています。パッケージを保存また は送信すると、[ステータス] タブにパッケージ明細と関連付けられているワークフローのすべてのステップが 表示されます。

[ステータス] タブでは、次のものを表示できます。

- パッケージに対して実行可能なすべてのアクション
- 現在までに実行したすべてのアクション
- ・ パッケージを解決するために実行する必要がある保留中のアクション

パッケージを送信した後、[ステータス] タブを使って、ワークフローを通して処理できます。各パッケージ明細には、ワークフローのすべてのステップが含まれています。ワークフローステップがアクションに対して適格な場合、そのステップの [テスト環境への変更の移行] フィールドに「適格」という値が表示されます(「図2-12. [パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ」(28ページ))。

図 2-12. [パッケージ] ウィンド ウの [ステータス] タブ

<i>ゆ</i> パッケージ: 30015				- D ×
「パッケージ情報				
パッケージ番号: 30015 パッケージ グループ:		作成者:	Admin User	
説明: path test		作成日時:	2013/04/12	17
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->テスト->本番		パッケージ ステータス:	進行中	
アサインされたユーザ: Admin User 🎩 優先度: 低	T	上位:		
アサイン先グループ: 17.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.1	マイズ 🔽	優先度シーケンス:	50	
達成率 (%): 0				
パッケージ明細 ステータス 巨メモ 巨参照 ユーザデータ				
シーケンオブジェク オブジェクトタイプ = 1 テフト環境への3	が東の移行 テフト	2 の恋雨	3 只有評価法士	_
1 ファイルクライアント 道格		U/&C		
2 test ファイル移行 適格				
				Þ
リフレッシュ すべてを選択 手すべて ビューー>	明細実行ログ (最新)	•	複数ステップ	
送信	明細実行ログ(最新)		DK GRF :	キャンセル
// 準備完了	グラフィック ビュー			
y · ·····	明細の権限			
	明細トランザクション	ン履歴		
	決定の詳細 情報 URL			

パッケージを送信した後、パッケージ明細を展開して、ワークフローに定義されているサブワークフロース テップを表示できます。サブワークフローステップを表示するには、[**展開する**]をクリックします。

[ステータス] タブですべてのサブワークフローステップを展開するには、[すべて展開する] をクリックします。サ ブワークフローステップを非表示にするには、[折りたたむ] をクリックします。 すべてのサブワークフローステップ を非表示にするには、[すべて折りたたむ] をクリックします。 [展開する] をクリックすると、パッケージ明細が 横方向に展開され、そのサブワークフロー内のすべてのステップが表示されます。

サブワークフローステップのヘッダテキストは、ワークフローステップのヘッダとは異なる色で表示されます。ス テップ番号には、ワークフローのレベルを示す小数位が付いています。たとえば、最上位レベルのワークフ ローのステップ3がサブワークフローである場合、そのステップの番号は3.1、3.2、3.3のようになります。同様 に、そのサブワークフローの下位のステップもサブワークフローステップである場合は、そのステップの番号は 3.2.1、3.2.2、3.2.3のようになります。

[ステータス] タブからは、数種類のログファイル、ワークフローのグラフィックビュー、トランザクション履歴、パッケージに関する詳細ファイルにアクセスできます。 パッケージの処理には、これらのファイル、ビュー、履歴が役立ちます。

明細実行ログへのアクセス

パッケージ明細を選択し、明細実行ログを表示することで、特定の明細の実行に関する詳細を取得できます。表示する明細は、実行バッチログ全体の一部です。

パッケージ明細が環境グループを使って複数の環境に移行するように設定されている場合、実行ログからは実行サマリと送り先の各環境のリンクが返されます。環境の詳細な実行ログを表示するには、関連リンクをクリックします。

パッケージ実行履歴へのアクセス

パッケージ実行履歴には、各パッケージ明細の実行履歴が表示されます。各実行ステップのワークフロー ステップの名前、実行日、結果([**正常に終了**]または[**失敗**])が表示されます。

パッケージ明細が環境グループを使って複数の環境に移行するように設定されている場合、実行ログからは実行サマリと送り先の各環境のリンクが返されます。リンクをクリックすると、各環境の詳細な実行ログを取得できます。

グラフィックビュー

ワークフローを表示するには、[グラフィックビュー] ウィンドウ(「図 2-13. パッケージの[グラフィックビュー] ウィンドウ」(29ページ))を選択します。実行済みのワークフローステップやアクティブなステップを確認するには、 ウィンドウ上部の凡例を使用します。この画像には、ワークフロー定義で使用されているすべてのワークフローステップおよびサブワークフローが表示されています。

特定のワークフローのグラフィックビューを取得するには、ウィンドウ下部の[**サブワークフローステップの表示**] リストからサブワークフロー名を選択します。新しいウィンドウが開き、そのサブワークフローのグラフィック ビューが表示されます。



図 2-13. パッケージの [グラフィックビュー] ウィンドウ

明細の権限の表示

ワークフローの権限は、初期のワークフローの設定時に決定されます。[明細の権限] ビューには、関連するワークフローステップで有効なセキュリティグループのすべてのユーザが表示されます。特定のワークフローステップに設定されている権限について不明な点がある場合は、アプリケーション管理者に問い合わせて ください。

明細のトランザクション履歴の表示

各 パッケージ明 細 のトランザクション履 歴を表 示 できます。トランザクション履 歴 から、HP Deployment Managementのワークフローを通してパッケージ明 細 がどのように処 理されたかを詳 細 に確 認 できます。ト ランザクションイベントの日 付、ワークフローステップにリンクしたユーザ、ワークフローステップの名 前と番号、 ステータス、結果 などの情報 が表示されます。

単一のパッケージ明細によって1回以上実行されたサブワークフローステップの情報を表示するには、[完 全トランザクション履歴]を選択します。

[現在のトランザクションステータス]を選択すると、そのステップまでの最新のトランザクションの情報のみが 表示されます。

決定の詳細の表示

決定の詳細には、各ワークフローステップの意思決定履歴が表示されます。表示されるのは、意思決 定ワークフローステップの日付、リソース、意思決定です。

ワークフローステップ情報のURLの表示

ワークフローステップを設定するとき、ワークフローステップに関する情報を提供するURLを含めることができます。 管理者が情報のURLをワークフローステップにリンクした場合、ワークフローステップ情報のURLウィンド ウでURLを表示できます。

[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ

[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ (「図 2-14. [パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ 」(31ページ)) には、パッ ケージに関するメモや情報を入力して保存できるフィールドがあります。 [メモ] セクションはパッケージ作成 プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。通常、パッケージの作成時には、パッケージ にメモを追加する必要はありません。 図 2-14. [パッケージ] ウィンド ウの [メモ] タブ

∅ パッケージ: 30015						
「パッケージ情報						
パッケージ番号: 30015	パッケージ グループ:	作成者:	Admin User			
説明: path test		作成日時:	2013/04/12			
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->	テスト->本番 🔠	パッケージ ステータス:	進行中			
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低. 💌	上位:				
アサイン先グループ:	パッケージ タイブ: カスタマイズ 💌	優先度シーケンス:	50			
達成率 (%): 0						
パッケージ明細 ステータス 巨メモ 巨参照 ユ	ーザ データ					
既存のメモ	新規メモ					
送信			DK 保存 キャンセル			
準備完了			-			

[パッケージ] ウィンドウの[参照] タブ

[パッケージ詳細] ページの[参照] タブ(「図 2-15. [パッケージ] ウィンドウの[参照] タブ」(32ページ)) には、 パッケージに関する追加情報が表示されます。たとえば、パッケージにURLを追加したり、パッケージから 古いドキュメントを削除したりできます。[参照] タブはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがク ローズするまで存在します。パッケージに対し、参照の追加や削除が可能です。

パッケージに参照を追加するには、[参照の追加] セクションを使用します。保存済みの参照は参照タイプ別に整理されています。たとえば、保存済みの参照パッケージはすべて [パッケージ] セクションに保存されています。一部の参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作成できます。参照とその機能の依存関係の詳細については、「参照リレーションシップ」(32ページ)を参照してください。

図 2-15. [パッケージ] ウィンド ウの [参照] タブ

🕼 パッケージ: 30015			<u> </u>	
「パッケージ情報				
パッケージ番号: 30015 パッケージ グループ		作成者:	Admin User	
i兒明: path test		作成日時:	2013/04/12 🔟	
<mark>ワークフロー:</mark> (REFERENCE) 開発->テスト->本番	E	パッケージ ステータス:	進行中	
アサインされたユーザ: Admin User 🔠 優先度	低	上位:		
アサイン先グループ: 11 パッケージ タイプ	カスタマイズ 💌	優先度シーケンス:	50	
達成率 (%): 0				
・ 「パッケージ明細 ステータス 回 メモ 「三 参照 ユーザ データ」				
タイプ 名前 詳細	ステータ 達成率 (%)	説明 リレーション	リレーションシッ ユーザ	
バッケージ 30016 (REFERENCE) 開発->テスト->本番	新規 0%	コビ このバッケー.	情報: バッケージ 3 Admin.	
太字で表示されている 項目 は、この パッケージ をアクティブに制御しています				
新規参照 バッケージ (既存) <u>追加</u> 削除			参照を開く	
送信		0	K 保存 キャンセル	
洋備完了				

参照リレーションシップ

ー 部の参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。

- 先行タスクリレーションシップ。先行タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズする まで、特定のエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、参照されたタスクがクローズ ([完了済み]、[回避済み]、[キャンセル])するまで、パッケージはワークフローアクションを完了できませ ん。パッケージのステータスは [保留中のタスク]です。タスクがクローズすると、パッケージをさらに操作で きるようになります。このリレーションシップによって、ほかのリクエストフィールドが編集できなくなるわけで はありません。
- ・後続タスクリレーションシップ。後続タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズする まで、そのエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、元のパッケージがクローズするま で、参照されたタスクのステータスを変更できません。タスクのステータスは[保留中のリクエスト]です。 パッケージがクローズすると、再びタスクを変更できるようになります。このリレーションシップによって、ほ かのタスクフィールドが編集できなくなるわけではありません。

表2-1に、参照とその定義、可能な依存リレーションシップを示します。

表2-1.参照とリレーションシップ

	参照の	可能な	リレーションシップの
参照	説明	リレーションシップ	説明
添付 ファイル	ローカルマシンのファイルを現在のパッ ケージに添付します。 添付ファイルは サーバにコピーされます。	標準の添付ファ イルインタラクショ ン	(情報)添付ファイ ルはこのパッケージ に関連付けられて います。
パッケージ (既存)	既存のパッケージを参照します。	このパッケージ関 連	(情報)選択した パッケージはこの パッケージに関連 付けられています。
		リリースのこのパッ ケージの前に実 行してください	(情報)リリースにお いて、選択したパッ ケージをこのパッ ケージの前に実行 する必要がありま す。
		リリースのこのパッ ケージの後に実 行してください	(情報)リリースにお いて、選択したパッ ケージをこのパッ ケージの後に実行 する必要がありま す。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケー ジがクローズするま で、パッケージに対 するアクションは実 行できません。
		後 続 タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケー ジがクローズするま で、そのパッケージ に対するアクション は実行できませ ん。

表 2-1.参照とリレーションシップ (続き)

	参照の	可能な	リレーションシップの
参照	説明	リレーションシップ	説明
パッケージ (新規)	パッケージから新しいパッケージを作成 することもできます。 ワークフローの一部として設定した場 合、ワークフローステップからパッケージを 作成できます。この場合、そのパッケー ジへの参照が自動的に生成され、パッ ケージ間で双方向リンクが確立されま す。	リリースのこのパッ ケージの前に実 行してください	(情報)リリースにお いて、選択したパッ ケージをこのパッ ケージの前に実行 する必要がありま す。
		リリースのこのパッ ケージの後に実 行してください	(情報)リリースにお いて、選択したパッ ケージをこのパッ ケージの後に実行 する必要がありま す。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケー ジがクローズするま で、パッケージに対 するアクションは実 行できません。
		後 続 タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケー ジがクローズするま で、そのパッケージ に対するアクション は実行できませ ん。
プログラム	HP Program Managementのプロジェクト を参照します。	このプログラム関 連	(情報)選択したプ ログラムはこのパッ ケージに関連付け られています。
プロジェクト	HP Project Managementのプロジェクト を参照します。	このパッケージ関 連	(情報)選択したプ ロジェクトはこのパッ ケージに関連付け られています。
リリース	HP Deployment Managementのプロ ジェクトを参照します。	このパッケージを 含みます	(情報) パッケージは 選択したリリースに 含まれています。

表 2-1.参照とリレーションシップ (続き)

参照	参照の 説明	可能な リレーションシップ	リレーションシップの 説明
リクエスト (既存)	既存のリクエストを参照します。	このパッケージの 上位	(情報)参照された リクエストはパッケー ジの上位です。
		このパッケージ関 連	(情報)参照された リクエストはこのパッ ケージに関連付け られています。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたリクエス トがクローズするま で、このパッケージ に対するアクション は実行できませ ん。
		後 続 タスク	(ブロックしています) このパッケージがク ローズするまで、参 照されたリクエスト に対するアクション は実行できませ ん。

表2-1.参照とリレーションシップ(続き)

	参照の	可能な	リレーションシップの
参照	説明	リレーションシップ	説明
リクエスト (新規)	既存のパッケージから新しいパッケージ を作成できます。 また、ワークフローのー部として設定さ	このパッケージの 上位	(情報)参照された リクエストはパッケー ジの上位です。
	れている場合は、パッケージからパッケー ジを作成できます。この場合、そのパッ ケージへの参照が自動的に生成され、 パッケージ間で双方向リンクが確立され ます。	このパッケージ関 連	(情報)参照された リクエストはこのパッ ケージに関連付け られています。
			(ブロックしています) 参照されたリクエス トがクローズするま で、このパッケージ に対するアクション は実行できませ ん。
		後 続 タスク	(ブロックしています) このパッケージがク ローズするまで、参 照されたリクエスト に対するアクション は実行できませ ん。
タスク	HP Project Managementのタスクを参照します。	このパッケージ関 連	(情報)参照された タスクはこのパッケー ジに関連付けられ ています。
URL	Webアドレスを参照します。 このURLに あるドキュメントはMIME形式である必 要があります。	標準のURL処理	(情報)URLはこの パッケージに関連 付けられています。

先行タスクリレーションシップ

先行タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズするまで、特定のエンティティに対して アクションを実行できません。たとえば、参照されたタスクがクローズ([完了済み]、[回避済み]、[キャンセ ル])するまで、パッケージはワークフローアクションを完了できません。パッケージのステータスは [保留中のタ スク]です。参照されたタスクがクローズすると、再びパッケージを操作できるようになります。このリレーション シップによって、ほかのリクエストフィールドが編集できなくなるわけではありません。
後続タスクリレーションシップ

後続タスクリレーションシップは、参照エンティティがクローズするまで、そのエンティティに対してアクションを 実行できないことを意味しています。たとえば、元のパッケージがクローズするまで、参照されたタスクのス テータスを変更できません。タスクのステータスは [保留中のリクエスト] です。パッケージがクローズすると、 再びタスクを操作できるようになります。このリレーションシップによって、ほかのタスクフィールドが編集でき なくなるわけではありません。

第3章:パッケージの作成

- •「パッケージ作成の概要」(38ページ)
- 「パッケージの作成」(44ページ)
- 「パッケージの一般情報の入力」(50ページ)
- •「パッケージへの明細の追加」(51ページ)
- •「パッケージへのメモの追加」(54ページ)
- •「パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加」(55ページ)
- 「パッケージの送信」(69ページ)

パッケージ作成の概要

この章では、ソフトウェアおよびアプリケーションの変更をデプロイするためのパッケージの作成方法および 送信方法について説明します。通常、パッケージの作成にはPPM Workbenchを使用しますが、既存の パッケージをコピーしたり、参照されたエンティティとしてパッケージを作成したりすることもできます。

パッケージを作成した後、送信してワークフロー (ビジネスプロセス)を開始する必要があります。パッケージを送信する方法については、「パッケージの送信」(69ページ)を参照してください。

パッケージを作成する前に

パッケージを作成する前に、次のものを理解する必要があります。

- ワークフロー。ワークフローWorkbenchで定義されています。
- •環境。ワークフローステップで指定され、環境Workbenchで定義されています。
- ・オブジェクトタイプ。オブジェクトタイプWorkbenchで定義されています。

ワークフローの選択

各 パッケージは、あらかじめ定 義されたワークフローを通して処 理されます。 作 成 する各 パッケージに適 用 するワークフローを選 択 する必 要 があります。 適切なビジネスプロセスを正 確 にモデル化 するワークフローを 通して、 パッケージをルーティングすることが重 要 です。

HP Deployment Managementワークフローのグラフィカルレイアウトを表示するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[構成]>[ワークフロー]を選択します。

[ワークフローWorkbench] ウィンド ウが開きます。

4. すべてのワークフローを表示するには、ワークフローWorkbenchで[リスト]をクリックします。

注:検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。

[結果]タブに、すべてのワークフローレコードが一覧表示されます。

5. [ワークフロースコープ]列に「パッケージ」を表示するワークフローを選択し、[開く]をクリックします。

[ワークフロー <ワークフロー名 >] ウィンド ウで、[レイアウト] タブが開き、ワークフローステップがグラフィック表示されます。



ワークフローがパッケージに適切なビジネスプロセスに従っていることを確認します。従っていない場合、別のワークフローを開きます。

6. 移行 ワークフローステップを右 クリックします。[テストに移行] または [本番に移行] ワークフローステップ などです。

そのステップの [ワークフローステップ] ウインド ウで [プロパティ] タブが表示されます。

7. タブに表示されている送り元環境および送り先環境が正しいことを確認します。

ゆワークフロー ステップ	×
プロバティ セキュリ	ティ 職務分掌 通知 タイムアウト ユーザ データ 結果 表示設定…
ステップ番号:	1
ステップ名:	テスト環境への変更の移行
アクション サマリ:	
記 記 日月:	
ソース タイプ:	意思決定
ソース名:	コピー(1) デモ アプリケーションの移行
有効:	 C いいえ
表示:	常に 🔽
ワークフロー パラメータ:	なし 💌
平均1-ド時間:	
プロジェクト ステータス:	
現在の達成率(%):	
上位アサイン先ユーザ:	
上位アサイン先グループ:	
ワークフロー ステップ情報:	U
必要な認証	なし 💌
進備完了	

- 8. [ワークフローステップ] ウィンド ウでその他の情報を表示するには、次のタブをクリックします。
 - セキュリティ: 選択したステップに対して使用できるセキュリティグループを定義するために使用します。 有効になっているセキュリティグループはすべて利用可能なセキュリティグループフィールド またはリンクされたセキュリティグループフィールド に表示されます。 リンクされたセキュリティグループに属する各ユーザは、その特定のワークフローステップに定義されているアクションを実行できます。
 - 職務分掌: ワークフローの選択したステップから分掌するワークフローステップを指定するために使用します。この分掌により、特定のユーザがワークフローで両方のステップを実行できないようになります。たとえば、変更をリクエストするユーザが第三者の承認を得ることなく、本番システムにそ

の変更をデプロイできないようにすることができます。

また、このタブを使って、パッケージ作成者が選択したワークフローステップを実行できないように 指定することもできます。

- 通知: ワークフローステップに電子メール通知を添付するために使用します。電子メールメッセージは、ステップで特定のイベントが発生した(例:ステップが特定の結果で完了した)場合に送信できます。
- タイムアウト:このタブには、このワークフローステップに設定されているタイムアウト間隔が表示されます。
- ユーザデータ: このタブには、各ワークフローステップにのカスタムフィールドが表示されます。
- 結果:このタブには、ステップに対して発生し得る有効な結果がすべて一覧表示されます。
- 9. [ワークフローステップ] ウィンド ウを閉じます。

環境の確認

ワークフローステップによっては、送り元環境と送り先環境を指定することがあります。指定した環境が正しいかどうかわからない場合、環境Workbenchでそれらの環境を開いてみることができます。

環境にアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[環境]>[環境]を選択します。

環境Workbenchが開きます。

- すべての環境を表示するには、[リスト]をクリックします。
 検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。
 [結果]タブに、すべての環境レコードが一覧表示されます。
- 5. 表示されている中から1つ以上の環境を選択し、[**開く**]をクリックします。

[環境 <環境名>] ウィンドウが開きます。

- 6. サーバ、クライアント、データベースの設定を確認します。
- 7. [環境] ウィンドウを閉じます。

オブジェクト タイプの確認

パッケージを作成するとき、オートコンプリートリストに利用可能なオブジェクトタイプが表示されます。パッケージの作成を始める前に利用可能なオブジェクトタイプを表示するには、オブジェクトタイプWorkbench でオブジェクトタイプを開きます。「表 3-1. オブジェクトタイプ」(42ページ)に、HPが用意しているオブジェクトタイプを示します。

注: HP Deployment Managementの機能拡張では、オブジェクトタイプが追加されています。

オブジェクトタイプ	説明
ファイルクライアント > クライアント	クライアント間でファイルをコピーします。
ファイル移行	環境間でファイルをコピーします。
PPMデータソースマイ グレータ	PPM Centerのデータソースマイグレータを移行します。
PPMモジュールマイグ レータ	PPM Center環境間でPPM Centerのモジュールを移行します。
PPMオブジェクトタイプ マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのオブジェクトタイプを移行します。
PPM概要ページセク ションマイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerの概要ページを移行します。
PPMポートレット 定義 マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのポートレット定義を移行します。
PPMプロジェクトタイプ マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのプロジェクトタイプを移行します。
PPMレポートタイプマ イグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのレポートタイプを移行します。
PPMリクエスト ヘッダタ イプマイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのリクエスト ヘッダタイプを移行します。
PPMリクエストタイプマ イグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのリクエストタイプを移行します。
PPM特殊コマンドマイ グレータ	PPM Center環境間でPPM Centerの特殊コマンドを移行します。

表 3-1. オブジェクトタイプ

表 3-1. オブジェクトタイプ (続き)

オブジェクトタイプ	説明
PPMユーザデータコン テキストマイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのユーザデータコンテキストを移行します。
PPM検証マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerの検証を移行します。
PPMワークフローマイ グレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのワークフローを移行します。
OS/390 JCL移行	送り元環境から送り先環境にOS/390 JCLを移行します。
PVCSファイル移行	PVCSアーカイブから送り先環境にオブジェクトを移行します。
RCSファイル移行	このオブジェクトは、RCSのコードのチェックアウトと配布を管理します。
RCSサーバファイル	古いファイルは送り先環境でチェックインされます。新しいファイルは送り先環 境でチェックインされ、読み取り専用でチェックアウトされます。
SourceSafeファイル移 行	SourceSafeバージョン制御アーカイブからのファイルのチェックアウトと昇格を管理します。

オブジェクトタイプの表示

オブジェクトタイプを開くには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

- 3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [オブジェクトタイプ] を選択します。 [オブジェクトタイプWorkbench] ウィンドウで [**クエリ**] タブが表示されます。
- 4. すべてのオブジェクトタイプを表示するには、[リスト]をクリックします。

検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。

- 表示されている中から1つ以上のオブジェククトタイプを選択し、[開く]をクリックします。
 [オブジェクトタイプ <オブジェクトタイプ名>] ウィンドウが開きます。
- 6. [**コマンド**]タブをクリックします。

- 7. オブジェクトタイプで呼び出されるコマンドを確認します。
- 8. [オブジェクトタイプ <オブジェクトタイプ名 >] ウィンド ウを閉じます。

パッケージの作成

通常、パッケージの作成にはPPM Workbenchを使用しますが、既存のパッケージをコピーしたり、参照されたエンティティとして新しいパッケージを作成したりすることもできます。このセクションでは、3とおりの方法すべてについて説明します。

PPM Workbenchを使ったパッケージの作成

パッケージは、ソフトウェアやアプリケーションの変更をデプロイするために使用します。このセクションでは、 パッケージ明細の追加や適切なデプロイワークフローの指定など、パッケージの内容の定義方法につい て説明します。ソフトウェアの移行を実行するたびに、新しいパッケージを作成する必要があります。

PPM Workbenchからパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [新規パッケージ]をクリックします。

[パッケージ] ウィンド ウが開きます。

🐠 パッケージ: 30015	
「パッケージ情報	
パッケージ番号: 30015 パッケージ グループ:	III 作成者: Admin User
説明 path test	作成日時 2013/04/12 國
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->テスト->本番	副 パッケージ ステータス: 新規
アサインされたユーザ: Admin User	▼ 上位:
アサイン(先ガルーナ) []] パッケージ タイナ ロフタマイフ	(毎先度シーケンス: 50
パッケージ明細 ステータス メモ 三 参照 ユーザ データ	
シーケン オブジェクトタイプ アプリケーション	1 2
1 ファイルクライアント (なし) Client File Name:	Sub Path: File Type:
2 ファイル移行 (なし) File Location:サー	パ Sub-Path: test File Name
	Þ
送信	OK 保存キャンセル
準備完了	

5. [パッケージ情報] セクションで、各フィールドに情報を入力します。

このセクションの各フィールドの入力方法については、「パッケージの一般情報の入力」(50ページ)を参照してください。

6. [パッケージ明細] タブで、パッケージにパッケージ明細を追加します。

パッケージ明細には、環境間で移行する各オブジェクトに関する情報が含まれています。パッケージ 明細を追加する方法については、「パッケージへの明細の追加」(51ページ)を参照してください。

7. [メモ] タブで、パッケージにメモを追加します。

メモを追加する方法については、「パッケージへのメモの追加」(54ページ)を参照してください。

8. [参照] タブで、パッケージに参照を追加します。

参照を追加する方法については、「パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加」(55 ページ)を参照してください。

9. パッケージを保存して [パッケージ] ウィンド ウを閉じるには、 [OK] をクリックします。 [パッケージ] ウィンド ウを開いたままパッケージを保存するには、 [保存] をクリックします。

既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成

既存のパッケージ (新規または保存済み)をコピーして、新しいパッケージを作成することができます。既存のパッケージのどのセクションを新しいパッケージに含めるかを指定できます。

既存のパッケージからパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [**クエリ**] タブで、[**リスト**] をクリックします。

パッケージWorkbenchの[結果]タブに、すべての既存のパッケージが一覧表示されます。

5. [結果]タブでパッケージを選択し、[コピー]をクリックします。

[パッケージのコピー] ウィンドウで [オプション] タブが表示されます。「表 3-2. [パッケージのコピー] のオプ ション」(48ページ)に、このタブで利用できるオプションを示します。



6. 新しいパッケージに含めるセクションを選択し、[詳細]タブをクリックします。

Øパッケージのコピー
コピーされたパッケージ情報
ヘッダのコピー元: 30015 💌 新規パッケージ番号: 30019
説明: コピー ~ 30015
ワークフロー : (REFERENCE) 開発->テスト->本番
オプション 詳細
コピーするバッケージ明細
Pkg No / Seq 含む オブジェクトタ オブジェク オブジェクト リビ ステータス アプリケーション
30015-1 はい ファイルクライ 開く (なし)
OK キャンセル

[詳細] タブに、元のパッケージからコピーしたパッケージ明細がすべて表示されます。 デフォルトでは、 これらの明細すべてが新しいパッケージに含まれます。

- 7. 表示されているパッケージ明細を新しいパッケージから除外するには、次の手順を実行します。
 - a. [コピーするパッケージ明細] テーブルで、明細を選択します。
 - b. タブの下部で[**含めない**]をクリックします。

[パッケージ] ウィンドウが開き、コピーしたパッケージから選択した情報が表示されます。

- 8. 表示されているパッケージ明細に関するパラメータを表示するには、次の手順を実行します。
 - a. [コピーするパッケージ明細] テーブルで、明細を選択します。
 - b. タブの下部で[パラメータを表示]チェックボックスを選択します。

[コピーするパッケージ明細] テーブルのほかの列に、パッケージ明細パラメータが表示されます。

- c. すべてのパラメータを表示するには、水平スクロールバーを使用します。
- 9. [OK] をクリックします。

表 3-2. [パッケージのコピー] のオプション

オプション	説明
パッケージ明細を	既存のパッケージのすべてのパッケージ明細 ([クローズ済み] または [キャンセル] 以外のステータス)を新しいパッケージにコピーします。 デフォルトは [はい]
コピー	です。
クローズした明細	既存のパッケージのすべてのクローズ済みパッケージ明細を新しいパッケージ
をコピー	にコピーします。 デフォルトは [はい] です。
キャンセルした明	既存のパッケージのすべてのキャンセルしたパッケージ明細を新しいパッケージ
細をコピー	にコピーします。 デフォルトは [いいえ] です。
<i>ヘッ</i> ダのノートを⊐	既存のパッケージに添付されているすべてのメモを新しいパッケージにコピーし
ピー	ます。 デフォルトは [いいえ] です。
ヘッダのユーザ	該当する場合、既存のパッケージのユーザデータを新しいパッケージにコピー
データをコピー	します。
新規パッケージを 送信	パッケージをコピーした後、パッケージを送信します。 デフォルトは [いいえ] で す。 [いいえ] を選択すると、パッケージは送信されません。 パッケージを送信す るには、コピーしたパッケージを開いて [送信] をクリックする必要があります。

パッケージからの参照としてのパッケージの作成

リクエストや別のパッケージなどのエンティティを参照するものとして、新しいパッケージを作成することができます。

既存のパッケージへの参照として新しいパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchで [クエリ] タブが表示されます。

4. 利用できるフィールドを使って検索条件を入力し、[リスト]をクリックします。

[結果]タブに、検索条件に一致するパッケージが一覧表示されます。

5. 開くパッケージの列をダブルクリックします。

[パッケージ] ウィンド ウが開きます。

- 6. [参照] タブをクリックします。
- 7. タブの下部にある[新規参照]リストから[パッケージ(新規)]を選択し、[追加]をクリックします。

[新規参照 - パッケージ (新規)] ウィンド ウが開きます。

🕼 新規参照 - パッケージ (新規) 🔀 🚺	
選択した パッケージ の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:	
● このパッケージ関連 - (情報) - 選択したパッケージはパッケージ 30015 に関連付けられています	
◎ リリースのこのパッケージの後に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の後に実行する必要がありま	
○ リリースのこのパッケージの前に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の前に実行する必要がありま	
○ 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、パッケージ 30015 に対するアクションは実行できません	
○ 後続タスク - (ブロックされました) - パッケージ 30015 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません	
1+ルス 注備完了	

8. [選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号 > に対するリレーションシップを選択]で、新しい パッケージと既存のパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[作成]をクリックします。

新しい [パッケージ] ウィンド ウが開きます。

参照されたエンティティ間で可能なリレーションシップの詳細については、「表 2-1. 参照とリレーション シップ」(33ページ)を参照してください。

- 9. 新しいパッケージに関する必須情報とオプション情報を入力して、[OK] または [保存] をクリックします。
- 10. 元のパッケージが表示されている[パッケージ]ウィンドウで、[OK]をクリックします。

リクエストからの参照としてのパッケージの作成

リクエストからの参照としてパッケージを作成することができます。リクエストからパッケージを作成する場合、適切な権限を持っていても、PPM Workbenchは開きません。[新規パッケージの作成] ページと [Newパッケージ] ページを使って、標準インタフェースで作業します。リクエストからの参照としてパッケージ を作成する場合、パッケージ明細は追加できません。つまり、パッケージを完成させて送信することはできません。パッケージにパッケージ明細を追加し、送信するには、パッケージWorkbenchを使用する必要があります。 リクエストからの参照としてパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**] > [Demand Management] > [リクエストの検索] を選択します。
- 3. リクエストを検索して開きます。

リクエストの詳細ページが開きます。

- 4. リクエストの詳細ページで、[参照] セクションにスクロールします。
- 5. [新規参照] リストから[パッケージ(新規)]を選択し、[追加]をクリックします。

[新規パッケージの作成]ページが開きます。



新規バッケージの作成

リレーションシップ: ○ このリクエストの下位 - (情報) - 選択したパッケージはリクエスト 33696 の下位です ● このリクエスト関連 - (情報) - 選択したパッケージはリクエスト 33696 に関連付けられています ○ 先行タスク - (プロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、リクエスト 33696 に対するアクションは実行できません ○ 後続タスク - (プロックされました) - リクエスト 33696 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません

作成 キャンセル

6. リレーションシップを選択し、[作成]をクリックします。

[新規パッケージ]ページが開きます。

- 7. リストからワークフローを選択します。
- 8. [メモ] タブでレコードに含めるオプションの情報を入力し、[保存]をクリックします。
- 9. リクエストの詳細ページで、[保存]をクリックします。

パッケージの一般情報の入力

パッケージの一般情報セクションを入力するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショート カット バーから、 [Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [**クエリ**] タブで、[新規パッケージ] をクリックします。

[パッケージ] ウィンド ウが開きます。[パッケージ] ウィンド ウを使って、パッケージの内容を定義します。 パッケージ番号は自動的に割り当てられます。

- 5. 必須フィールドを入力します。
- 6. オートコンプリートリストからワークフローを選択します。
- 7. [パッケージ] ウィンドウで、[OK] または [保存] をクリックします。

パッケージ明細がパッケージに追加されます。

パッケージへの明細の追加

パッケージ明細により、環境間で移行するオブジェクトが定義されます。パッケージ明細はそれぞれ1つの オブジェクト (多くの場合はファイル)を定義します。通常、オブジェクト (ファイル)は、オブジェクトタイプ ([**ファイルクライアント**] > [**クライアント**]、または [**ファイル移行**])、名前、場所、(ファイルの場合は) ファイルタ イプによって定義されます。

パッケージに明細を追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. パッケージを開くか、新しいパッケージを作成します。

[パッケージ] ウィンド ウが開きます。

5. [新規明細]をクリックします。

[行の追加] ウィンドウが開きます。

6. [オブジェクトタイプ] フィールドでオートコンプリートアイコンを使って、移行するオブジェクト (ファイル)の オブジェクトタイプを選択します。

オブジェクトタイプを選択すると、[行の追加] ウィンドウのフィールドが動的に更新されます。

🍻 パッケージ: 30015				_ _ _ _ _
「パッケージ情報	伽行の追加			X
パッケージ番号: 30015 パッケージ グルー	□オブジェク	ト タイプ情報		
説明: path test	オブジェク	トタイナ		[]
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->テスト->本番	37727	ーケンス・3 アプリ	ケーションコー	- F: なし 💌
アサインされたユーザ: Admin User 🌒 優先!!		の検証	, , , , , ,	×
アサイン先グループ: 国 パッケージ タイ	1778-3			
達成率 (%): 0		オブジェクトタイプ(前方一致):		
パッケージ明細 ステータス 巨メモ 巨 参照 ユーザデータ		ぺ-♡: ◀ 1 ▶	1 - 21 / 21 を表	·····
シーケン オブジェクトタイプ アプリケーション				
1 ファイルクライアント(なし) Cli		オブジェクトタイプ	拡張名	オブジェクト
2 J71 J/1917 ((40) FIII		OS/390 JCL Migration		標準オブジェ… 🔼
		PPM Data Source Migrator		標準オブジェ… F
		PPM Module Migrator		標準オブジェ… F
		PPM Object Type Migrator		標準オブジェ… F
		PPM Overview Page Secti		標準オブジェ… F
		PPM Portlet Definition Migr		標準オブジェ… F
		PPM Project Type Migrator		標準オブジェ… F
		PPM Report Type Migrator		標準オブジェ… F
		PPM Request Header Typ		標準オブジェ… F
		PPM Request Type Migrator		標準オブジェ… F
46.4月月日6日 月日6年の16日生		PPM Special Command M		標準オブジェ… F
471795-73000 -73000000		PPM User Data Context Mi		標準オブジェ… F
28/6		PPM Validation Migrator		標準オブジェ F
I <u></u>		PPM Workflow Migrator		標準オブジェ… F
準備完了		PPM Workplan Template		標準オブジェ…F
,		PVCS ファイル移行		標準オブジェ… Fー
		Pro++= 18 m = XII.	1	挿雑★ − 4 ≈ 9 =
	クリア			
	オゴミジェクト			
	ופדפנאן			DK キャンセル
		21 件の選択項目が返されました。		

7. [行の追加] ウィンドウで関連するフィールドを入力し、[OK] をクリックします。

[行の選択] ウィンド ウから複数のパッケージ明細を追加できることもあります。 これが可能なのは、移行する複数のブジェクト (ファイル)が同じ場所にある場合です。

1つの[行の追加] ウィンドウから複数の明細を追加するには、次の条件を満たしている必要があります。

- パッケージ明細がすべての同じワークフローに従い、同じオブジェクトタイプを使用している。
- オブジェクトタイプパラメータに、[複数] ボタンが有効なオートコンプリートリストフィールドが少なくとも1つある。

複数のファイルを選択することで、複数のパッケージ明細をパッケージに追加できます。ただし、1 つのパッケージ明細に複数のオブジェクトを定義することはできません。

「オブジェクト タイプ情報	
オブジェクト タイプ: RCS ファイル移行	
シーケンス: 3 アブリケーション コード: なし	•
パラメータ ユーザ データ	
File Location: サーバ	-
Sub Path:	2
File Name:	ונ
Version Label: [PKG.NUMBER]	
File Type: ASCII	•
/ クリア OK 追加 キャンセル	
BCS ファイル移行 パラメータが読み込まれました。	

[行の追加] ウィンドウの内容は、[パッケージ] ウィンドウでパッケージ明細として表示されます。[行の追加] ウィンドウが閉じます。[行の追加] ウィンドウで [**追加**] をクリックすると、[パッケージ] ウィンドウにパッケージ明細が加わります。[行の追加] ウィンドウは開いたままです。

Ø パッケージ: 30015	
パッケージ番号: 30015 パッケージ グルーブ: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	作成者: Admin User
説明: path test	作成日時: 2013/04/12 🔟
	パッケージ ステータス: 新規
アサインされたユーザ: Admin User 🔳 優先度: 低 💌	上位:
アサイン先グループ:	優先度シーケンス: 50
達成率 (%): 0	
パッケージ明細 ステータス メモ 巨 参照 ユーザ データ	
シーケン オブジェクトタイプ アプリケーション 1	2
1 ファイル クライアント (なし) Client File Name:	Sub Path: File Type:
2 ファイル移行 (なし) File Location: サーバ	Sub-Path: test File Name
4	•
	AND/0459
送信	OK 保存 キャンセル
举備完了	

8. [パッケージ] ウィンドウで、[OK] または [保存] をクリックします。

パッケージ明細がパッケージに追加されます。関連付けられているワークフローでパッケージを開始するには、[送信]をクリックします。パッケージをワークフローに送信すると、ワークフローの定義されている各ワークフローステップの[ステータス]タブでエントリが生成されます。ワークフローの各ステップは処理の準備ができているため、ステップのステータスは[適格]と表示されます。各パッケージ明細の進捗を確認するには、[ステータス]タブをクリックします。パッケージを送信する方法については、「パッケージの送信」(69ページ)を参照してください。

パッケージへのメモの追加

[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ (「図 3-1. [パッケージ] ウィンドウの [メモ] セクション」(55ページ)) には、その他のパッケージ情報が表示されます。メモの添付先はパッケージであり、個々のパッケージ明細ではありません。パッケージ明細に固有のメモがある場合、メモのテキストの一部としてパッケージ明細への参照を含める必要があります。

図 3-1. [パッケージ] ウィンド ウの [メモ] セクション

🕼 パッケージ: 30015	×
「パッケージ情報	
<mark>パッケージ番号:</mark> 30015 パッケージ グループ: []	作成者: Admin User
説明: path test	作成日時: 2013/04/12 🔟
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->テスト->本番 目	- パッケージ ステータス: 進行中
アサインされたユーザ: Admin User 🏝 優先度: 低 💌	上位:
アサイン先グループ: 🔠 パッケージ タイプ: カスタマイズ 👱	優先度シーケンス: 50
達成率 (%): 0	
パッケージ明細「ステータス」 巨 メモ 「巨」参照「ユーザ データ」	
既存のメモ 新規メモ	
取入IL	
送信	OK 保存 キャンセル
準備完了	

メモを追加できるのは、既存のパッケージ、作成中のパッケージ、クローズしていない送信済みパッケージです。 クローズしたパッケージにメモを追加することはできません。

メモを追加するには、パッケージを開き、[メモ] タブをクリックします。[新規メモ] フィールドにメモのテキストを入力し、[保存] をクリックします。[既存のメモ] フィールドにメモが追加されます。

パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加

[パッケージ詳細] ページの [参照] セクションを使って、パッケージに数タイプの参照を追加できます。 たとえば、パッケージにドキュメント やURLを追加できます。 パッケージに追加できる参照タイプは次のとおりです。

- 添付ファイル
- ・ パッケージ(新規および既存)
- プロジェクト
- ・リリース
- リクエスト (新規および既存)

- タスク
- URL

参照によっては (リクエスト、その他のパッケージなど)、元のパッケージとの機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。参照と可能な依存関係リレーションシップのリストについては、「参照リレーションシップ」(32ページ)を参照してください。

このセクションでは、パッケージWorkbenchを使ってさまざまなエンティティタイプをパッケージ参照として追加 する方法を説明します。標準インタフェースからパッケージ参照を追加する方法については、「標準インタ フェースでのパッケージへの参照の追加」(76ページ)を参照してください。

パッケージ参照としての添付ファイルの追加

このセクションでは、添付ファイルをパッケージ参照として追加する手順について説明します。

添付ファイルをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. パッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンド ウで、[参照] タブをクリックします。

🍻 パッケージ: 30015	
「パッケージ情報	
パッケージ番号: 30015 パッケージ グループ:	作成者: Admin User
説明: path test	作成日時: 2013/04/12 🔯
<mark>ワークフロー</mark> : (REFERENCE) 開発->テスト->本番	1 パッケージ ステータス: 進行中
アサインされたユーザ: Admin User 副 優先度: 低	▼ 上位:
アサイン先グループ: アサイン先グループ: アサイン・ガスタマイズ	▼ 優先度シーケンス: 50
達成率 (%): 0	
パッケージ明細 ステータス 巨 メモ 三 参照 ユーザ データ	
タイプ 名前 詳細 ステータ… 達	成率 (%) 🔄 説明 🛛 リレーション… 🛛 リレーションシッ… ユーザ
バッケージ 30016 (REFERENCE) 開発->テスト->本番 新規 0%	コピ このバッケー 情報: バッケージ 3 Admin.
4	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •
太字で表示されている 項目 は、この パッケージ をアクティブに制御しています	
新規参照 パッケージ(既存) <u>追加</u> 削除	参照を開く
送信	OK キャンセル
準備完了	

6. [新規参照] リストで [添付ファイル] を選択し、[追加] をクリックします。

[ドキュメントの追加] ウィンドウが開きます。

🚸 ドキュメントの追加		×
ファイル		
	参照	
作者: Admin User		
[兑8月] [*]		
P		
追加 キ	ャンセル	
		- 1

7. ファイルを添付してフィールドを入力し、[追加]をクリックします。

[参照] タブに、添付ファイルが一覧表示されます。

8. [OK] または [保存] をクリックします。

パッケージ参照としての既存パッケージの追加

パッケージへの参照として既存のパッケージを追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. パッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンド ウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストから[パッケージ(既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - パッケージ(既存)] ウィンドウが開きます。

◎新規参照 - パッケージ (既存)
パッケージ番号: 目
選択した パッケージ の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:
💿 このパッケージ関連 - (情報) - 選択したパッケージはパッケージ 30015 に関連付けられています
🔹 🔍 リリースのこのパッケージの後に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の後に実行する必要がありま
🔹 🔍 リリースのこのパッケージの前に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の前に実行する必要がありま
🔹 🔿 先行タスクー (ブロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、パッケージ 30015 に対するアクションは実行できません
🔹 💿 後続タスクー (ブロックされました) - パッケージ 30015 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません
検索 OK キャンセル
準備完了

7. [選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号 > に対するリレーションシップを選択] で、そのパッ ケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択します。 8. [パッケージ番号] オートコンプリートリストから既存のパッケージを選択します。

[パッケージ番号] フィールドに、選択したパッケージの番号が表示されます。

9. [選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、そのパッ ケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK] をクリックします。

[参照]タブに、選択したパッケージが一覧表示されます。

10. [OK] または [保存] をクリックします。

パッケージ参照としての新規パッケージの追加

新しいパッケージにパッケージを参照させることができます。

パッケージ参照として追加するパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
 PPM Workbenchが開きます。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。
 パッケージWorkbenchが開きます。
- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンド ウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストから[パッケージ(新規)]を選択し、[追加]をクリックします。

[新規参照 - パッケージ(新規)] ウィンドウが開きます。

(の新規参照 - パッケージ (新規)
選択した パッケージ の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:
● このパッケージ関連 - (情報) - 選択したパッケージはパッケージ 30015 (こ関連付けられています)
🔹 🔍 リリースのこのパッケージの後に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の後に実行する必要がありま
🔹 🔍 リリースのこのパッケージの前に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の前に実行する必要がありま
🔹 😳 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、パッケージ 30015 に対するアクションは実行できません
🔹 🔍 ⑥ 後続タスク - (ブロックされました) - パッケ ージ 30015 がクローズするまで、選択したパッケ ージに対するアクションは実行できません
学 順元 1

7. [選択したパッケージのパッケージ < パッケージ番号 > に対するリレーションシップを選択]で、新しい パッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[作成]をクリックします。

新しい[パッケージ] ウィンド ウが開きます。

- 8. [ワークフロー] フィールドに、新しいパッケージに適用するワークフローの名前を入力します。
- [メモ] タブに記録するその他の情報を入力し、値を変更して、[保存] または [OK] をクリックします。
 [参照] タブに、新しいパッケージ参照が一覧表示されます。
- 10. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのプログラムの追加

既存のプログラムにパッケージを参照させることができます。

既存のプログラムを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンド ウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストで [プログラム] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - プログラム] ウィンド ウが開きます。

∅新規参照 - ブログラム	X
プログラム名 目	
選択した プログラム の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:	
💿 このパッケージ関連 - (情報) - 選択したプログラムはパッケージ 30015 に関連付けられています	
	OK キャンセル
準備完了	

7. [プログラム名] フィールドで、オートコンプリートリストからプログラムを選択します。

[プログラム名] フィールドに、選択したプログラムが表示されます。

8. [選択したプログラムのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、そのプロ グラムとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK] をクリックします。

[参照] タブに、プログラム名 が表示されます。

9. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのプロジェクトの添付

プロジェクトをパッケージ参照として添付するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く] > [管理] > [Workbenchを開く**]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンド ウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照]リストで[プロジェクト]を選択し、[追加]をクリックします。

[新規参照 - プロジェクト] ウィンド ウが開きます。

🕼 新規参照 - フロジェクト	×
<u>ታወን</u> ፤/አዲ	
選択した プロジェクト の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:	
● このパッケージ関連 - (情報) - 選択したプロジェクドはパッケージ 30015 に関連付けられています	
P	
	OK キャンセル
洋備完了	

- 7. [プロジェクト名] フィールドで、オートコンプリートリストからプロジェクト名を選択します。
- 8. [選択したプロジェクトのパッケージ <パッケージ番号>に対するリレーションシップを選択]で、そのプ

ロジェクトとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK]をクリックします。

[参照]タブに、選択したプロジェクトが一覧表示されます。

9. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

リリースを参照として追加する

既存のリリースにリクエストを参照させることができます。 リリースを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。
 PPM Workbenchが開きます。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。
 パッケージWorkbenchが開きます。
- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンド ウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストで [リリース] を選択し、[追加] をクリックします。

[ステータス] セクションで、[新規参照 - リリース] ウィンド ウが開きます。

🕼 新規参照 - リリース 🛛 🛛 🗡
- リース名
選択した リリース の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:
● このパッケージを含みます - (情報) - パッケージ 30015 は選択したリリースに含まれています
OK キャンセル
準備完了

- 7. [リリース名] フィールドで、オートコンプリートリストを使ってリリース名を指定します。
- 8. [選択したリリースのパッケージ <パッケージ番号>に対するリレーションシップを選択]で、そのリリース とパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK]をクリックします。

[参照] タブにリリースが一覧表示されます。

9. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としての既存リクエストの追加

既存のリクエストにリクエストを参照させることができます。

既存のリクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンド ウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストから [リクエスト (既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - リクエスト (既存)] ウィンド ウが開きます。

🕼 新規参照 - リクエスト (既存)	×
リクエスト番号:	
選択した リクエスト の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:	
◎ このパッケージの上位 - (情報) - 選択したリクエスドはパッケージ 30015 の上位です	
💿 このパッケージ関連 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30015 に関連付けられています	
📗 🔿 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したリクエストをクローズするまで、パッケ ージ 30015 に対するアクションは実行でき	ません
🔹 🔍 ⑥ 後続タスク - (ブロックされました) - パッケージ 30015 がクローズするまで、選択したリクエストに対するアクションは実行でき	ませ
検索OK+ャン	セル
準備完了	

- 7. [リクエスト番号] フィールドで、オートコンプリートリストを使ってリクエスト名を指定します。
- 8. [選択したリクエストのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、そのリクエ ストとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK] をクリックします。

[参照]タブに、既存リクエストが一覧表示されます。

9. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としての新規リクエストの追加

新しいリクエストを作成し、パッケージ参照として追加することができます。

新規リクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンド ウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストから[リクエスト (新規)]を選択し、[追加]をクリックします。

[新規参照 - リクエスト (新規)] ウィンドウが開きます。

◇新規参照 - リクエスト (新規)	×
<u>ሀ/ን፲</u> スト ቃ/プ	
選択した リクエスト の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:	
│ ○ このパッケージの上位 - (情報) - 選択したリクエスドはパッケージ 30015 の上位です	
💿 このパッケージ関連 - (情報) - 選択したリクエスドはパッケージ 30015 に関連付けられています	
🔹 🔿 先行タスクー (ブロックしています) - 選択したリクエストをクローズするまで、パッケージ 30015 に対するアクションは実行できませ	
🔹 🔿 後続タスクー(ブロックされました) - パッケージ 30015 がクローズするまで、選択したリクエストに対するアクションは実行できませ	
作成 キャンセ	v
华備完了	

- 7. [**リクエストタイプ**] フィールドで、オートコンプリートリストを使って作成するリクエストタイプを指定します。
- 8. [選択したリクエストのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、その新規 リクエストとパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[作成]をクリックします。

[新規リクエストの作成]ページが新しいブラウザウィンドウで表示されます。

- 9. すべての必須 (赤のアスタリスクが付いている)フィールドを入力します。
- 10. オプションのフィールドと[メモ] タブで、リクエストに関してユーザに公開するその他の情報を入力します。
- 11. [送信]をクリックします。

[パッケージ] ウィンドウの[参照] タブに、新規リクエストが一覧表示されます。

12. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのタスクの追加

既存のタスクをパッケージへの参照として追加することができます。 既存のタスクを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
 PPM Workbenchが開きます。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。
 パッケージWorkbenchが開きます。
- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [新規参照]リストで[タスク]を選択し、[追加]をクリックします。

[新規参照 - タスク] ウィンド ウが開きます。

(/) 新規参照 - タスク
<u>१८७२</u> 🗄
選択した タスク の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:
③ このパッケージ関連 - (情報) - 選択したタスクはパッケージ 30015 に関連付けられています
OK キャンセル
举備完了

- 6. [タスク名] フィールドで、オートコンプリートリストを使ってタスクを指定します。
- 7. [選択したタスクのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択] で、そのタスクと パッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK] をクリックします。

[パッケージ] ウィンドウの [参照] タブに、タスクが一覧表示されます。

8. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのURLの追加

URLIこパッケージを参照させることができます。

URLを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストで [URL] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照-URL] ウィンドウが開きます。

(の)新規参照 - URL	×
URL	U
OK 追加 =	キャンセル
準備完了	

- 7. [URL] フィールドに、URLアドレスを入力します。
- 8. 指定したURLをテストするため、[URL] フィールドの右側にある[U]をクリックします。
- [説明] フィールドにURLとパッケージの関係の説明を入力し、[OK] をクリックします。
 [パッケージ] ウィンドウの [参照] タブに、URLが表示されます。
- 10. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージの送信

パッケージが完成したら、送信できます。完成したパッケージには、次のものが必要です。

- パッケージ番号
- 関連付けられているワークフロー
- ・ 少なくとも1つのパッケージ明細

パッケージが完成して送信できる状態である場合、[パッケージ] ウィンドウの左下隅で [送信] ボタンが有効になります。

完成したパッケージを送信するには、[送信]をクリックします。

第4章:パッケージの処理

- 「パッケージ処理の概要」(71ページ)
- •「標準インタフェースを使ったパッケージの処理」(72ページ)
- •「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)
- •「標準インタフェースでのパッケージの承認」(73ページ)
- •「標準インタフェースでのパッケージへのメモの追加」(75ページ)
- •「標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加」(76ページ)
- •「PPM Workbenchを使ったパッケージの処理」(89ページ)

パッケージ処理の概要

HP Deployment Managementでパッケージを送信した後、処理と管理を行うことができます。パッケージの処理とは、ワークフローを通してパッケージを進めながら作業することを指します。

注意が必要なパッケージは、次の方法で検索できます。

- パッケージWorkbenchを使用。パッケージWorkbenchの[クエリ] タブで、パッケージを検索する検索条件を指定します。パッケージが見つかったら、強調表示して[開く]をクリックします。選択したパッケージが[パッケージ] ウィンドウで開きます。
- 標準インタフェースでポートレットを使用。関連するパッケージを最もすばやく検索するには、標準イン タフェースを使用します。PPM Dashboardページに [マイパッケージ] ポートレット がある場合、自分が 作成したパッケージと自分に割り当てられているパッケージがすべて表示されます。パッケージ番号をク リックすると、標準インタフェースでパッケージが開きます。
- ・標準インタフェースで検索を使用。標準インタフェースの検索でも、パッケージを検索できます。標準 インタフェースのメニューバーで、[検索] > [パッケージ]を選択します。[パッケージの検索]ページが開き ます。[パッケージの検索]ページで検索条件を入力し、[検索]をクリックします。[パッケージ検索結 果]ページが開きます。[パッケージ検索結果]ページでパッケージ番号をクリックすると、標準インタ フェースでパッケージが開きます。。
- 通知を使用。ワークフローを通してパッケージの処理を進めているとき、保留中のアクションを知らせる電子メール通知が送信されることがあります。通知には、パッケージへのリンクを記載できます。リンクをクリックすると、参照されたパッケージがPPM Workbenchで開きます。現在、PPM Centerにログインしていない場合、[ログオン]ページが開きます。
- オープン済みのパッケージでレポートを生成 (標準インタフェース)。HP Deployment Managementでは、HTMLテキストを生成し、Webブラウザでアクセスできる、一連のレポートがあらかじめ定義されて

います。これらのレポートの中に保留中のパッケージレポートがあります。このレポートには、保留中のアクティビティがあるオープン済みのパッケージが表示されます。

HP Deployment Managementの各レポートの生成と表示の詳細については、『Reports Guide and Reference』を参照してください。

標準 インタフェースからパッケージを処理する方法については、「標準インタフェースを使ったパッケージの 処理」(72ページ)を参照してください。

標準インタフェースを使ったパッケージの処理

標準インタフェースの[パッケージ詳細] ページを使って、ワークフロー全体を通してパッケージを処理できま す。パッケージにメモや参照を追加したり、パッケージのステータスを決定したりすることが可能です。PPM Workbenchからパッケージを処理する方法については、「PPM Workbenchを使ったパッケージの処理」 (89ページ)を参照してください。

標準インタフェースでのパッケージの開始

このセクションでは、標準インタフェースの[パッケージの検索]ページ、ポートレット、電子メール通知のパッケージリンクを使ってパッケージを開く方法について説明します。

[パッケージの検索]ページからのパッケージの開始

[パッケージの検索]ページを使ってパッケージを開くには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- メニューバーから、[開く] > [Deployment Management] > [パッケージの検索] を選択します。
 [パッケージの検索] ページが開きます。
- 3. 検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

[パッケージ検索結果]ページに、指定した条件に一致するパッケージが一覧表示されます。

4. [パッケージ番号]列で、開くパッケージのパッケージ番号をクリックします。

パッケージの詳細ページが開きます。

[マイパッケージ] ポートレット からのパッケージの開始

PPM Dashboardのページに [マイパッケージ] ポートレットが表示されていない場合、追加できます。PPM Dashboardのページにポートレットを追加する方法については、『ポートレットとモジュールの作成』ガイドを
参照してください。

[マイパッケージ] ポートレットを使って、作成したパッケージや割り当てられているパッケージを開くには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから [**ダッシュボード**] を選択し、[マイパッケージ] ポートレットが表示されているPPM Dashboardのページを選択します。
- 3. [マイパッケージ] ポートレットの[パッケージ番号] 列で、開くパッケージの番号を選択します。

パッケージの詳細ページが開きます。

通知リンクを使ったパッケージの開始

パッケージがワークフローステップを経て進むにつれ、そのパッケージの保留中のアクションを知らせる電子 メール通知が送信されることがあります。通知にパッケージへのリンクが記載されている場合、そのリンクを クリックすると、参照されたパッケージがPPM Workbenchで開きます(PPM Centerにログインしていない場 合、[ログオン] ページが開きます)。

標準インタフェースでのパッケージの承認

標準インタフェースを使ってパッケージを承認するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. 承認するパッケージを開きます。

詳細ページを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照してください。

バッケーシ 30030										
								保存		北水
৲৵ঈ										,
*パッケージ番号:	30030	パッケージ グループ:			作成者:	Admin User				
說明:	Dev to Test - sql and html File M	Migration			作成日時	December 10, 2	800			
ワークフロー:	Standard Deployment				ステータス:	進行中				
アサインされたユーザ:		優先度:	Low		上位:					
アサイン先グループ:		パッケージ タイプ:	Customization	~	優先度シーケンス:	50				
達成率 (%):	0									
ステータス										
明細の表示: ④ 保・	留中の明細のみ		;	ステップの幕	戦示: 🖲 自分のアクシ	/ョンを待つ ステップ				
0 3	べての明細				○ すべてのステ	・ップ	リフレッシュ			
表示すべての明細				適格な	ステップの表示: 期間	Standard Deplo	yment			
シーケンス	オブジェクト名	オブジェクト タイプ		0	5: QA Test	0	0	0		
1	mainpage.html	File Migration			通格					
	Load_Distribution_Data.sql	File Migration			1811 0					
すべてチェック	すべてクリア 明線の詳	目 ログの表示	t.		すべてチェック	すべてクリア	ワークフロー アクション		-	
۶Ŧ										
保存時に追加されるメモ:										
		~								
		\sim								
参照										
参照の追加										
新規参照: 添付ファイル	▶ 進加									
保存時に追加される参照:										
	[]]<	削除								
								保存		リセット

[ステータス] セクションに、ワークフローのパッケージ明細が表示されます。

- 3. [ステータス] セクションの [明細の表示] の横で、次のいずれかの操作を行います。
 - アクションに対して適格なパッケージ明細のみを表示するには、[保留中の明細のみ]、[リフレッシュ]の順にクリックします。
 - ワークフローのすべてのパッケージ明細を表示するには、[**すべての明細**]、[**リフレッシュ**]の順にクリックします。
- 4. [ステータス] セクションの [ステップの表示] の横で、次のいずれかの操作を行います。
 - アクション待機中のワークフローステップのみを表示するには、[自分のアクションを待つステップ]、 [リフレッシュ]の順にクリックします。
 - すべてのワークフローステップを表示するには、[すべてのステップ]、[リフレッシュ]の順にクリックします。

ステータス						
明細の表示: ④ 保留中の明細のみ		ステップの表示: ④ 自分のアクションを待つ ステップ				
○ すべての明細		○ すべてのステップ リフレッシュ				
表示 すべての明細		適格なステップの表示: 期間 Standard Deployment				
シーケンス オブジェクト名	オブジェクト タイプ	O 5: QA Test O O O				
1 mainpage.html	File Migration	□ 適格				
2 Load_Distribution_Data.sql	File Migration	□ 適格				
すべてチェック すべてクリア 明緑の詳細	ログの表示	すべてぎょっク すべてりりア ワークフロー アクション 🗐 📢 📣 🕨 🕨	•			

ワークフロー名の下には、ワークフローを完了するために実行と承認が必要な番号付きステップがあります。ワークフローステップで前後にナビゲートするには、方向矢印を使用します。

5. [適格なステップの表示<ワークフロー名>] セクションで、承認する (または承認しない) 番号付きワー クフローステップに対応するオプションボタンを選択し、承認する (または承認しない) 特定の明細の [適格] チェックボックスを選択します。

すべてのステップを選択するには、[すべてチェック]をクリックします。

ワークフローステップのすべての[適格] チェックボックスをクリアするには、[**すべてクリア**]をクリックします。

6. アクションに対して1つ以上のパッケージ明細を選択したら、[ワークフローアクション]をクリックします。

[パッケージ: ワークフローアクション] ページが開きます。

7. [必須アクション] セクションで、ステップの結果を選択します。

結果は設定可能であるため、サイトの設定によってワークフローステップごとに異なります。前の例では、可能なアクションは次のとおりです。

- ワークフローステップで承認の準備ができている場合、[承認済み]を選択します。
- ワークフローステップで承認の準備ができていない場合、[未承認]を選択します。
- 8. [OK] をクリックします。

[パッケージ詳細] ページが開きます。 選択したワークフローステップを承認した (または承認しなかった) ため、 ワークフローは次のステップに進みます。 このプロセスは、 パッケージがすべてのステップを経て解決されるまで続きます。

標準インタフェースでのパッケージへのメモの追加

[メモ] セクションには、パッケージの追加情報を入力するフィールドがあります。メモを追加するには、[メモの追加] サブセクションに情報を入力します。メモを保存するには、パッケージを保存します。

既存のメモの表示は、[既存のメモ] セクションで行います。既存のメモは暦順に一覧表示されます。最 新のメモが一番最初に表示されます。既存のメモは、[ユーザメモのみ表示]、[メモの作成者]、[変更済 みフィールド] でフィルタできます。

既存のメモを削除することはできません。

図 4-1. [メモ] セクション

Æ

保存時に追加されるメモ:

	~
	\sim
I	

標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加

場合によっては、パッケージにWebアクセス可能なファイル、ドキュメント、ローカルマシンのファイルを参照 させると便利です。このような参照をパッケージに追加するには、標準インタフェースを使用します。

パッケージ参照として追加できるエンティティは、次のとおりです。

- 添付ファイル
- ・パッケージ(新規または既存)
- プロジェクト
- ・リリース
- リクエスト(新規または既存)
- ・タスク
- URL

参照タイプによっては (リクエスト、その他のパッケージなど)、参照との機能の依存関係を作成できます。 たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、参照されたリクエストがクローズ するまでパッケージを続行できないことを意味します。有効なパッケージ参照と、パッケージとのリレーション シップの詳細については、「参照リレーションシップ」(32ページ)を参照してください。

このセクションでは、標準インタフェースからパッケージにさまざまなタイプの参照を追加する方法について 説明します。PPM Workbenchからパッケージ参照を追加する方法については、「パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加」(55ページ)を参照してください。

参照としての添付ファイルの追加

添付ファイルをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

HP Deployment Managementユーザーガイド 第4章: パッケージの処理

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

注: パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストで [添付ファイル] を選択し、[追加] をクリックします。

[ドキュメントの追加] ウィンドウが開きます。

Project and Portfolio Management Center	
ドキュメントの追加	

* ファイル:		
	13	
初期バージョンのコント:		
	\sim	
	>	
Admin User		
説明:		キーワード:
	\sim	ドキュメントコンテンツには自動的にインデックスが作成されました。
	\sim	追加のキーワードをここに入力してください。
		道加 キャン //2ル

- 5. [ファイル] フィールドの横にある [参照] をクリックし、参照として添付するドキュメントファイルを参照して選択します。
- 6. [作者] フィールドで、デフォルト値を添付ファイルの作成者名に置き換えることができます。
- 7. [説明] フィールドに、添付ファイルの説明を入力します。
- 8. [追加]をクリックします。

[パッケージ] ページの[保存時に追加される参照] フィールドに、参照された添付ファイルが一覧表示されます。

9. [保存]をクリックします。

添付ファイルがリクエスト参照として追加されます。

パッケージ参照としての既存パッケージの追加

既存のパッケージにパッケージを参照させることができます。

既存のパッケージをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストから[パッケージ(既存)]を選択し、[追加]をクリックします。

[参照の追加:パッケージ] ウィンドウが開きます。

照の追加:ハッケーン			快楽 キャノロ
表示する パッケージの検	-		フィールドのクリア
バッケージ番号:]
ワークフロー:			
オブジェクト タイプ:			
オブジェクト名:]
アサイン先:		<u></u>	
作成者:			
作成日が次の日から	👘 次の日まで:		P
説明中のキーワード:]
クローズしたものを含める	Ottu Ouuz		
マイアクションが可能	つまい ��いいえ		
送信済みのみ	೧೩೩ ®ುಬಸ		
次へのアクションを禁止:	コリクエスト		
	コパッケージ		
ソート基準: パッケージ番	号 ── ○昇順		
	●β韋川順		
1ページ当たりの最大結果	: 50		
		Γ	検索 キャン

Project and Portfolio Management Center

5. 検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

[パッケージ検索結果] セクションに、検索条件に一致するパッケージが一覧表示されます。

6. 参照として追加するパッケージのチェックボックスを選択し、[追加]をクリックします。

[パッケージ]ページの[保存時に追加される参照]フィールドに、参照されたパッケージが一覧表示されます。

7. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としての新規パッケージの追加

新しいパッケージにパッケージを参照させることができます。

パッケージ参照として新しいパッケージを追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストから[パッケージ(新規)]を選択し、[追加]をクリックします。

[新規パッケージの作成] ウィンド ウが開きます。

- 5. [**リレーションシップ**] で、新しいパッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択します。
- 6. [Select which Relationship the new Package will have to Package # (新しいパッケージのパッ ケージ番号に対するリレーションシップを選択)] で、新しいパッケージと開いたパッケージのリレーション シップを示すオプションを選択します。

参照リレーションシップのさまざまなタイプの詳細については、「参照リレーションシップ」(32ページ)を 参照してください。

7. [作成]をクリックします。

[新規パッケージ] ウィンド ウが開きます。

Project and Portfolio Management Center

新規バッケージの作成

リレーションシップ: ● このパッケージ関連 - (情報) - 選択したパッケージはパッケージ 30030 に関連付けられています ● リリースのこのパッケージの後に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30030 の後に実行する必要があります(両者がリリースにある場合) ● リリースのこのパッケージの前に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30030 の前に実行する必要があります(両者がリリースにある場合) ● 先行タスク - (プロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、パッケージ 30030 に対するアクションは実行できません ● 後待タスク - (プロックされました) - パッケージ 30030 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません



- 8. [ワークフロー] フィールドに、新しいパッケージに適用するワークフローの名前を入力します。
- 9. 保存するオプションの情報を入力し、値を変更して、[保存]をクリックします。

[パッケージ] ページの[保存時に追加される参照] フィールドに、新しい参照されたパッケージが一覧表示されます。

10. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としてのプログラムの追加

既存のプログラムにパッケージを参照させることができます。

プログラムをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストで [プログラム] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照プログラム] ウィンド ウが開きます。

Project and Portfolio Management Center					
参照プログラム					
*プログラム: *リレーションシップ: ● このパッケージ関連 - (情報) - 選択したプログラムはパッケージ 30030 に関連付けられています					
	追加キャンセル				

5. [プログラム] フィールド でプログラム名を指定するには、オートコンプリートリストから名前を選択して [追加]をクリックします。

[パッケージ] ページの[保存時に追加される参照] フィールドに、選択したプログラムが一覧表示されます。

6. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としてのプロジェクトの添付

プロジェクトをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照]リストで[プロジェクト]を選択し、[追加]をクリックします。

[参照の追加: プロジェクト] ウィンド ウが開きます。

気するプロジェクトの検索				
ブロジェクト名 (含む): ブロジェクト タイプ:		13 詳細検索	<u> ታ</u> ロジェクト マネージャ:	
計画開始日が次の日から:		次 の 日 ま で:		
計画終了日が次の日から:	B	次 の 日 ま で:		
終了したプロジェクトを含める:	○はい●いいえ	-		
ヘルス:	□ ■ □ △ □ ● □ t&L		関連付けられたプログラム: 地域:	
ドキュメント キー ワード :添付ドキュン	メントの内容と詳細を検索します。			
		0		
□」 過去のバージョンの検索 ドキュ・ア・ト フライルタニタキわみキの).			

5. 1つ以上の利用可能なフィールドに検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

[参照の追加:プロジェクト] ウィンドウに、指定した検索条件に一致するプロジェクトが一覧表示されます。

- 6. [表示するプロジェクトの選択] セクションで、パッケージ参照として追加するプロジェクトのチェックボック スを選択します。
- 7. [追加]をクリックします。

[パッケージ] ページの[保存時に追加される参照] フィールドに、参照されたプロジェクトが一覧表示されます。

8. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としてのリリースの追加

既存のリリースをパッケージ参照として追加することができます。

既存のパッケージにパッケージを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストで [リリース] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照リリース] ウィンドウが開きます。

Project and Portfolio Management Center	
参照リリース	
・ ・リリース: ・ リレーションシップ: ● このパッケージを含みます - (情報) - パッケージ 30030 は選択したリリースに含まれています	
	追加キャンセル

5. [リリース] フィールド でリリース名を指定するには、オートコンプリートリストから名前を選択して [追加] をクリックします。

[パッケージ] ページの [保存時に追加される参照] フィールドに、参照されたリリースが一覧表示されます。

6. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としての既存リクエストの追加

既存のリクエストにパッケージを参照させることができます。

既存のリクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストから [リクエスト (既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照の追加:リクエスト] ウィンド ウが開きます。

5. リクエストの検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

Project and Portfolio Management Center

示するリクエストの検索				7	ィールドのクリア
7	1		后生 府 •		
ス) -3ス. アサイン牛・			変元気・ アサイン先グループ・		
7 5 1 2 元。					
±x322.			シンエスト シンション・ マールケー・ション・		
			フララフ ション・		
」 シンロー・			今社名·		
いっクえれた プロ・ジェクト:			リクエスト番号:		
		 	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	I				
最終更新日が次の日から:		☆の日まで:	₽ ²		
リクエスト キー ワード : リクエスト	・メモと説明の内容を検索	気します。			
ドキュメント キー ワード :: 添付ド	キュメントの内容と詳細を	を検索します。 😰) 🗌 過去のバージョンの検索		
ドキュメント ファイル名(含む):				<u> </u>	
次へのアクションを禁止:			マイアグションが可能	()はい ©いいえ	
	ロバッケージ		クロースしたものを含める	∪はい ●いいえ	
追加のフィルタ:				^ クエリビルダ	
道加のフィルタ:				クエリビルダ	
追加のフィルタ:				クエリビルダ	
道加のフィルタ:	<		>	クエリビルダ	
道加のフィルタ:	<		>	クエリビルダ	
道加のフィルタ: リート基準:	レクエスト番号			クエリビルダ	
箇加のフィルタ: ノート基準: 1 ページ当たりの最大結果数: ↓	く リクエスト番号 50	N	 一昇順 ●『峰順 ・返される行の最大数: 	クエリビルダ	
追加のフィルタ: ワート基準: *1 ページ当たりの最大結果数: │	マレクエスト番号 50	<u></u>	 〇昇順 ●降順 ・返される行の最大数: 	クエリビルダ 1000	
道加のフィルタ: ソート基準: *1 ページ当たりの最大結果数: の選択	レクエスト番号 50	N	 〇昇順 ●降綱 ・返される行の最大数: 	クエリビルダ へ 1000	
道加のフィルタ: ソート基準: 1ページ当たりの最大結果数: の選択 利用できる列	レクエスト番号 50 違肌にた列		 〇昇順 ●降順 ・返される行の最大数: 	クエリビルダ	
道加のフィルタ: ソート基準: *1ページ当たりの最大結果数: の選択 和用できる列 アサイン先 アサイン先	レクエスト番号 50 ジロスト番号 ジロスト番号 * ジロスト番号 *		 〇昇順 ●降順 ・返される行の最大数: 注記:アスタリスク (*) が後 につく列は、表示から削除 つくグリは、表示から削除 	クエリビルダ 1000	
道加のフィルタ: ソート基準: *1ページ当たりの最大結果数: の選択 利用できる列 アサイン先 アサイン先 アサインたうルーブ アプリケーション リクエスト グルーブ リアプリケーション リクエスト グルーブ			 一 昇順 ●降加順 ・返される行の最大数: 注記:アスタリスク(*)が後 につく列は、表示から削除 できません。 	<u>クエリビルダ</u> 1000	
道加のフィルタ: ソート基準: 1 ページ当たりの最大結果数: の選択 Pサイン先グルーブ アサイン先グルーブ アサイン先グルーブ アサイン先グルーブ アサインたグルーブ アサインたグルーブ アサインたグルーブ リクエストグルーブ リクエストグルーブ リクエストダー	リクエスト番号 50 50 選択した列 リクエスト番号 説明 ステータス 作成者 使先度 ワークアロー		 〇昇順 ●6峰順 ・返される行の最大数: 注記: アスタリスク (*) が後 につく列は、表示から削除 できません。 	クエリビルダ 1000	
道加のフィルタ: シート基準: ・1 ページ当たりの最大結果数: 「1 ページ当たりの最大結果数: 「7 サイン先 アサイン先 アサイン先 アサイン先 クレーブ アサインた アサイン先 クレーブ リクエスト ダルーブ リクエスト ダルーブ リクエスト タイブ タ社名 最終更新	リクエスト番号 50		 〇昇順 ●降順 ・返される行の最大数: 注記:アスタリスク (*) が後 につく列は、表示から削除 できません。 	クエリビルダ 1000	

6. [選択したリクエストのパッケージ番号に対するリレーションシップを選択] で、新しいリクエストと開いた パッケージのリレーションシップを示すオプションを選択します。

参照リレーションシップのさまざまなタイプの詳細については、「参照リレーションシップ」(32ページ)を参照してください。

7. パッケージ参照として追加するリクエストのチェックボックスを選択し、[追加]をクリックします。

[パッケージ] ページの[保存時に追加される参照] フィールドに、参照されたリクエストが一覧表示されます。

8. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としての新規リクエストの追加

新規リクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストから [リクエスト (新規)]を選択し、[追加] をクリックします。

[新規リクエストの作成] ウィンドウが開きます。

Project and Portfolio Management Center						
新規リクエストの作成						
"ህንェスト タイプ:						
*リレーションシップ: ○ このパッケージの上位 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30030 の上位です						
◉ このパッケージ関連 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30030 に関連付けられています						
○先行タスク - (ブロックしています) - 選択したリクエストをクローズするまで、バッケージ 30030 に対するアクションは実行できません						
○後続タスク - (ブロックされました) - バッケージ 30030 がクローズするまで、選択したリクエストに対するアクションは実行できません						
作成 キャンセル						

5. [リクエストタイプ] リストから、開いたパッケージへの参照として作成するリクエストのタイプを選択しま

す。

6. [**リレーションシップ**] で、新しいリクエストと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択 します。

参照タイプとその定義、可能な依存関係リレーションシップのリストについては、「参照リレーション シップ」(32ページ)を参照してください。

7. [作成]をクリックします。

[新規 <リクエストタイプ> の作成] ウィンド ウが開きます。

- 8. すべての必須 (赤のアスタリスクが付いている)フィールドにデータを入力し、新しいリクエストについて 記録するオプションのデータを入力します。
- 9. [送信]をクリックします。

[パッケージ] ページの[保存時に追加される参照] フィールドに、新しいリクエストが一覧表示されます。

10. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としてのタスクの追加

既存のタスクにパッケージを参照させることができます。

既存のタスクを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- (新規参照) リストで [タスク] を選択し、[追加] をクリックします。
 [参照の追加: タスク] ウィンドウが開きます。
- 5. 利用可能なフィールドに検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

[参照の追加:タスク] ウィンドウに、指定した検索条件に一致するタスクが一覧表示されます。



参昭の追加・	タスク
多端空边加	~~/

表示するタスクの検索					
* 少なくとも1つのフィールドに入力する必要	があることを示します。				
* タスク名 (前方一致):					
*リソース:		8	タスク ステータス:		
終了したタスクを含める	೦¦ಮ ⊛ುಗುಸ				
例外のあるタスクのみ表示	Oltu ∙€いいえ				
マイルストーンのみ表示	⊖∣ູ່ ເາຍາ ເອີຍາເມະຊົ				
スケジュールされた開始日が次の日から:	2	次の日まで:	1		
スケジュールされた終了日が次の日から:	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	次の日まで:	100 A		
次の基準を満たすプロジェクト内の検索					
*プロジェクト名:					
*プロジェクト マネージャ:	admin				
ソート基準: タスク名	☑ ●昇順 ○降順		*1 ページ当たりの表示結果数:	50	
				ſ	検索

6. [表示するタスクの選択] セクションで、開いたパッケージに参照として追加するタスクのチェックボックス を選択し、[追加]をクリックします。

[パッケージ] ページの[保存時に追加される参照] フィールドに、選択したタスクが一覧表示されます。

7. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としてのURLの追加

既存のURLにパッケージを参照させることができます。

URLをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(72ページ)を参照して ください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストで [URL] を選択し、[追加] をクリックします。

(IP)	Project and Portfolio Management Center
参照	URL
*URL:	URL の表示
説明:	
	OK キャンセル

- 5. [URL] フィールドに、URLアドレスを入力します。
- 6. 指定したURLをデフォルトのブラウザウィンドウでテストするため、[URL] フィールドの右側にある[U] を クリックします。
- 7. [説明] フィールドにURLとパッケージの関係の説明を入力します。
- 8. [OK] をクリックします。

[パッケージ]ページの[保存時に追加される参照] フィールドに、指定したURLが一覧表示されます。

9. [保存]をクリックします。

PPM Workbenchを使ったパッケージの処理

PPM Workbenchで送信済みのパッケージを処理するには、[パッケージ] ウィンドウを使用します。[パッケージ] ウィンドウから、ワークフローを通して送信済みのパッケージを処理できます。パッケージへのメモや参照の追加、パッケージのステータスの決定、パッケージに対するアクションの実行が可能です。また、 [パッケージ] ウィンドウからパッケージの変更や削除もできます。

PPM Workbenchからのパッケージの開始

PPM Workbenchからパッケージを開くには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. すべての既存パッケージを表示するには、[リスト]をクリックします。

検索を絞り込むには、1つ以上の検索フィールドに情報を入力します。

5. 表示されているパッケージを選択し、[開く]をクリックします。

パッケージのステータスの確認

各 パッケージ明 細 は、割り当 てられているワークフローによって定 義されたビジネスプロセスに従う必要 があります。 各 明 細 のすべてのワークフローおよびサブワークフローは、[パッケージ] ウィンド ウの [**ステータス**] タ ブで表 示 できます。

送信済みパッケージのステータスを表示するには、次の手順を実行します。

1. 送信済みパッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「PPM Workbenchからのパッケージの開始」(89ページ)を参照してください。

[パッケージ] ウィンド ウが開きます。

- 2. [ステータス] タブをクリックします。
- 3. パッケージのステータスを確認します。

ここで、各パッケージ明細のステータスを確認できます。各ワークフローステップの結果はパッケージ明細行に記録されており、どの明細が正常終了してクローズまたは失敗してクローズしたかをすばやく把握できるようになっています。

ワークフローステップは一覧表示されていますが、解決までにパッケージ明細がすべてのステップを経 る必要はありません。たとえば、再作業が必要な場合のみ使用する再作業用のステップがある場 合もあります。パッケージの詳細については、そのパッケージに関するログ、ビュー、レポートのいずれか を選択してください。[ステータス] タブの詳細については、「[パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ」 (27ページ)を参照してください。

「適格」なステップの実行

パッケージを送信すると、各パッケージ明細の1つ以上のワークフローステップが[適格]に設定されます (「図4-2. [ステータス] タブの適格なステップ」(91ページ)を参照)。これは、パッケージの解決プロセスにおい て、まず実行または意思決定ステップを実行する必要があることを示しています。適格なステップを実行 する権限がある場合、[ステータス]列のテキストは太字で表示されます。

適格なステップによって、必要な操作は異なります。

- •「実行」ワークフローステップの場合、アクションを実行する必要があります。
- •「意思決定」ワークフローステップの場合、意思決定を行う必要があります。

アクションの実行または意思決定を行うと、HP Deployment Managementによって結果が表示されます。 図 4-2. [ステータス] タブの適格なステップ

<i>∲</i> パッケージ: 30015			
「パッケージ情報			
パッケージ番号: 30015 パッケ	ージ グループ:		作成者: Admin User
説明: path test		f1	成日時 2013/04/12 🔟
<mark>ワークフロー</mark> : (REFERENCE) 開発->テスト-	>本番	11日 パッケージス	テータス: 進行中
アサインされたユーザ: Admin User 🎩	優先度: 低	T	上位:
アサイン先グループ: 11 11 パ:	ッケージ タイプ: カスタマイズ	● 優先度シ	ーケンス: 50
達成率 (%): 0			
パッケージ明細 ステータス 白 メモ 白 参照 ユーザ デー	-9		
シーケンス オブジェク オブジェクトタイプ	1 テスト環境への変更の移行	2 テストの変更	3 品質評価待ち Z
1 ファイル クライアント	適格		
2 test ファイル移行	適格		
	4		
<u>リフレッシュ</u> すべてを選択 + すべて - すべ	────────────────────────────────────	lグ <mark>(</mark> 最新) ▼	保留中の保存
送信			OK 保存 キャンセル
準備完了			

ワークフローステップの処理

ワークフローステップを処理するには、次の手順を実行します。

1. 送信済みパッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「PPM Workbenchからのパッケージの開始」(89ページ)を参照してください。

[パッケージ] ウィンド ウが開きます。

- 2. [ステータス] タブをクリックします。
- 3. 1つ以上のパッケージ明細を選択します。

1つのパッケージ明細に対しては1つのステップを、複数の明細に対しては複数のステップを選択できます。アクションに対して適格なすべてのパッケージ明細に対してすべてのステップを選択するには、 [**すべてを選択**]をクリックします。

ー度に複数のワークフローステップを実行することはできません。複数のワークフローステップのセルを 選択すると、[**アクション**] ボタンは無効のままです。指定したワークフローステップを実行するためのセ キュリティ権があれば、ボタンは有効になります。

実行のためのセキュリティ権限があるワークフローステップを選択すると、[ステータス] タブの右下にあるボタンのラベルが [アクション] からワークフローステップ名に変わります。

4. 選択したステップに対してアクションまたは意思決定を実行するには、[アクション]をクリックします。

[意思決定] ウィンドウまたは[実行] ウィンドウが開きます。

各ステップに選択した有効な結果が設定されています。

- 5. [意思決定] ウィンドウが開いている場合、[結果] リストから意思決定結果を選択します。[実行] ウィンドウが開いている場合、リストから[今すぐ実行]、[実行のスケジュール]、[実行のバイパス]のい ずれかを選択します。
- 6. [メモ] フィールドに、保存するコメントを入力できます。

[意思決定] ウィンドウの詳細については、「意思決定ワークフローステップの実行」(92ページ)を参照してください。[実行] ウィンドウの詳細については、「実行ワークフローステップの実行」(94ページ)を参照してください。

7. [OK] をクリックします。

意思決定ステップでも実行ステップでも、ステップの結果はワークフローエンジンによって処理され、多くの変更が発生することがあります。 ワークフロー定義ではワークフローおよびサブワークフローが複数存在する ことがあり、この定義に基づき、特定のワークフローステップの結果によってほかのワークフローステップが適格になることがあります。 その場合は、 パッケージ解決プロセスにおいて、 次のアクションが実行されます。

後続ステップが適格になった場合は順番に実行され、次のワークフローステップが適格になります。このプロセスは、パッケージが最終状態 (通常はクローズステップ)に到達するまで続行されます。

意思決定ワークフローステップの実行

意思決定ワークフローステップは、ユーザまたはグループが結果を指定する必要があるステップです。たとえば、「移行の承認」は、意思決定ワークフローステップの例です。自分で意思決定ステップを実行するか、意思決定を委任することができます。

意思決定ワークフローステップを実行するには、次の手順を実行します。

1. [パッケージ] ウィンドウで、[ステータス] タブを選択します。

ゆ パッケージ: 30015			_ _ _ _
- パッケージ情報	ァージ グループ: 		作成者: Admin User
説明: path test	,	/F)	成日時 2013/04/12 🔟
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->テスト	->本番	田 パッケージス:	テータス: 進行中
アサインされたユーザ: Admin User 🔠	優先度: 低	T	上位:
アサイン先グループ: 11 パ	ッケージ タイプ: カスタマイズ	 優先度シー 	-ケンス: 50
達成率 (%): 0			
パッケージ明細 ステータス 自 メモ 自 参照 ユーザ デ	-タ		
シーケンス オブジェク オブジェクトタイプ	1 テスト環境への変更の移行	2 テストの変更	3 品質評価待ち 2
1 ファイル クライアント	適格		
2 test ファイル移行			
	4		
リフレッシュ すべてを選択 + すべて - す	べて ビュー> 明細実行口	グ(最新) 💌	保留中の保存
送信			OK 保存 キャンセル
準備完了			

2. 適格な意思決定ワークフローステップを選択します。

[ステータス] タブにアクセスして適格な意思決定ワークフローステップを選択する方法については、 「「適格」なステップの実行」(90ページ)を参照してください。

選択したステップに基づき、[アクション] ボタンのラベルが変更されます。たとえば、[QAテスト] [適格] をクリックすると、[アクション] ボタンのラベルが「QAテスト」に変わります。

注: [**ステータス**] タブに [**アクション**] ボタンが表示されない場合、セキュリティグループはそのワークフローステップに割り当てられていません。

3. [アクション] ボタンをクリックします。 ステップ2の例 では、 [QAテスト] をクリックします。

[QAテストパッケージの意思決定] ウィンドウが開きます。

- 4. リストから必要な該当するアクション ([今すぐ決定] または [意思決定の委任])を選択します。
 - [今すく決定]を選択した場合、意思決定ワークフローステップに関する意思決定を行う必要があります(例:[承認])。意思決定ワークフローステップに関する意思決定を行うには、次の手順を実行します。

- i. [結果] リストで、結果を選択します。
- ii. [メモ] フィールドに自分の意思決定に関する情報を入力し、[OK]をクリックします。

[意思決定] ウィンドウが閉じます。意思決定結果が[ステータス] タブに追加されます。

- [意思決定の委任]を選択した場合、意思決定をほかのユーザに割り当てる必要があります。 意思決定を委任するには、次の手順を実行します。
 - i. [委任先] オートコンプリートリストを使ってリソースを選択します。
 - ii. [メモ] フィールドに必要な意思決定に関する情報を入力し、[OK]をクリックします。

[意思決定] ウィンドウが閉じ、結果が[ステータス] タブにー覧表示されます。

5. [OK] をクリックします。

意思決定がシステムに投入されます。複数のユーザが結果について意思決定を行うようにワークフロー ステップが設定されている場合、必要なすべての意思決定が行われるまで、パッケージ明細は次のステッ プに進めません。意思決定ワークフローステップにおいて複数のユーザが結果について意思決定を行う 必要がある場合、[決定の詳細] ビューを使って、そのワークフローステップの現在の意思決定結果を表示できます。

実行ワークフローステップの実行

実行ワークフローステップでは、HP Deployment Managementシステムによってアクションが実行され、ス テップの結果が更新されます。これらのアクションはトークン値の計算のように単純な場合も、ファイルのコ ピー、プログラムの実行、Webページの更新のように複雑な場合もあります。

実行ワークフローステップを実行するには、次の手順を実行します。

1. [パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブで、適格な意思決定 ワークフローステップを選択します。

[ステータス] タブにアクセスして適格な意思決定ワークフローステップを選択する方法については、 「「適格」なステップの実行」(90ページ)を参照してください。

[アクション] ボタンが有効になります。選択したステップに基づき、ボタンのラベルが変更されます。次の例では、[アクション] ボタンのラベルが「SAPエクスポート」に変わります。

🕼 パッケージ: 30022							
「バッケージ情報――							
パッケージ番号:	30022	パッケージ グルー	プ:		作成	者: Admin Use	
 					作成日	時: 2013/04/12	12
ワークフロード	хуz				パッケージ ステータ	ス: 進行中	
アサインされたユーザ:	*	優先.	度: 低	-	上	位:	
アサイン先グループ:		パッケージ タイ	ブ カスタマイズ	-	優先度シーケン	ス: 50	
達成率 (%):	0						
パッケージ明細 ステー	ぬ 画 光 画 参照 ユ	ーザデータ					
シーケンス オブジェ	ク オブジェクト	1 コード レビ	2 SAPエクスポート	3 テストに.	4 QA テスト	5 Prod1に移行	6 Prod2に移行 F
1	ファイル クライ	適格			Í		
		4					F
, リフレッシュ す	べてを選択 🛛 🕂 すべて		> 明細実行	ログ <mark>(</mark> 最新)	-	SAPID	スポート
						OK 保有	= = ++>ZUI

2. [ステータス] タブで [アクション] ボタン (この例 では [SAPエクスポート]) をクリックします。

[SAPエクスポート実行] ウィンドウが開きます。

- 3. リストから[今すぐ実行]、[実行のスケジュール]、[実行のバイパス]のいずれかを選択します。
 - [今すぐ実行]を選択して [OK] をクリックすると、ワークフローステップが実行されます。[実行] ウィンドウが閉じます。ワークフローステップの結果がワークフローステップのパッケージ明細に表示されます。このプロセスは、ソフトウェアの移行、PL/SQL関数の実行、パッケージ明細のクローズ、その他のアクティビティで発生する可能性があります。実行エンジンによってステップが実行され、結果が設定されます。
 - [実行のスケジュール]を選択した場合、[実行日]および[実行時間]フィールドが表示されます。日時を選択し、[OK]をクリックします。[実行]ウィンドウが閉じます。実行スケジュールがワークフローステップのパッケージ明細に表示されます。このプロセスは、ソフトウェアの移行、PL/SQL 関数の実行、パッケージ明細のクローズ、その他のアクティビティで発生する可能性があります。 実行エンジンによってステップが実行され、結果が設定されます。
 - [実行のバイパス]を選択した場合、[実行結果]フィールドが表示されます。結果を選択し、 [OK]をクリックします。[実行] ウィンドウが閉じ、選択した結果がワークフローステップのパッケージ 明細に表示されます。
- 4. [OK] をクリックします。

メモの追加

[パッケージ] ウィンド ウの [**メモ**] タブ (「図 4-3. [パッケージ] ウィンド ウの [メモ] タブ」(96ページ)) には、その他 の パッケージ情報 が表示 されます。

図 4-3. [パッケージ] ウィンド ウの [メモ] タブ

🕼 パッケージ: 30015	- O ×
「パッケージ情報	
<mark>パッケージ番号:</mark> 30015 パッケージ グループ: 1111 (Rother Admin User) 作成者: Admin User	
説明: path test 作成日時: 2013/04/12	17
アサインされたユーザ: Admin User 🔠 優先度: 低 🔽 上位:	
アサイン先グループ: 10 10 パッケージ タイプ: カスタマイズ 🔹 優先度シーケンス: 50	
達成率 (%): 0	
パッケージ明細 ステータス 巨 メモ 巨 参照 ユーザ データ	
既存のメモ 新規メモ	
送信 OK 保存	キャンセル

メモを追加するには、[新規メモ] フィールドにテキストを入力し、[保存] をクリックします。[既存のメモ] フィールドにメモが追加されます。

参照の追加、更新、削除

パッケージ参照の追加や更新は、PPM Workbenchの[パッケージ] ウィンドウの[参照] タブで行うことができます。次の各セクションでは、参照を追加、更新、削除する方法について説明します。

- •「参照の追加」(97ページ)
- •「参照リレーションシップの更新」(97ページ)
- •「参照の削除」(98ページ)

参照の追加

[パッケージ] ウィンドウの [参照] セクションには、その他のパッケージ情報があります。たとえば、パッケージ に参照としてドキュメント やURLを追加できます。 パッケージ参照として追加できるエンティティは、次のとおりです。

- 添付ファイル
- ・ パッケージ(新規および既存)
- プロジェクト
- ・リリース
- リクエスト (新規および既存)
- タスク
- URL

参照によっては (リクエスト、その他のパッケージなど)、元のパッケージとの機能の依存関係を作成できます。 たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。 これは、リクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。 参照と可能な依存関係 リレーションシップのリストについては、「参照リレーションシップ」(32ページ)を参照してください。

参照を追加する方法については、「パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加」(55ページ)または「標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加」(76ページ)を参照してください。

参照リレーションシップの更新

PPM Workbenchから既存の参照リレーションシップを更新するには、次の手順を実行します。

1. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「PPM Workbenchからのパッケージの開始」(89ページ)を参照してください。

- 2. [参照] タブをクリックします。
- 参照されたエンティティの[リレーションシップ] フィールドをクリックし、表示されているリストから項目を 選択します。

Ø パッケージ: 30022	2							- D ×
「バッケージ情報―								
パッケージ番号:	30022		パッケージ グルー	プ:	I	作成者:	Admin User	
						作成日時:	2013/04/12	17
ワークフロード	ХУZ				III	パッケージ ステータス:	進行中	
アサインされたユーザ:		*	優先)	寛 低	•	上位:		
アサイン先グループ:		≣	パッケージ タイ	プ カスタ	マイズ 💽	優先度シーケンス:	50	
達成率 (%):	0							
/ /パッケージ明細│ステー	- タス】 (画) メモ	- ● 参照 ユ・	-ザ データ					
タイプ 名前	詳細	ステータス	達成率 (%)	説明	リレーシ	/ヨンシップ	リレーショ)	ンシップの詳細
パッケージ 30015	(REFE	進行中	0%	path test	このバッケージ関	ia 🛛	■情報:パッケー:	ジ 30015 はパッ
					このバッケージ関連	車		
					リリースのこのバー	ッケージの後に実行し	-	
					リリースのこのバッ	ッケージの前に実行し	4	
					先行タスク			
					後続タスク			
A								
太字で表示されている	項目は、この	の パッケージ をア	クティブに制御して(います				
新規参照 バッケー・	ジ(既存) 🔻	追加	削除					参照を開く
送信							DK 保存	キャンセル
"保存"成功。								

4. [OK] または [保存] をクリックします。

パッケージに加えた変更が保存されます。

参照の削除

PPM Workbenchから参照を削除するには、次の手順を実行します。

1. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「PPM Workbenchからのパッケージの開始」(89ページ)を参照してください。

- 2. [参照] タブをクリックします。
- 3. 参照を選択し、[削除]をクリックします。

参照が削除されます。

- 4. [保存]をクリックして、参照の削除を確認します。
- 5. 操作を取り消して参照の削除をキャンセルするには、[キャンセル]をクリックします。

進行中のパッケージへのパッケージ明細の追加

送信済みのパッケージにパッケージ明細を追加することができます。パッケージ明細を追加できるのは、ステータスが[進行中]のパッケージに対してです。この方法については、「パッケージへの明細の追加」(51ページ)を参照してください。

新しいパッケージ明細は、パッケージを保存するまで送信されません。パッケージを保存すると、新しいパッケージ明細はワークフローの最初のステップに送信され、そのパッケージのほかの明細に追いつくまで、個別に処理できます。送信した時点で、新しいパッケージ明細にほかの明細と同じステータスが自動的に割り当てられるわけではありません。

第5章:パッケージの管理

- 「HP Deployment Managementでのパッケージの管理」(100ページ)
- 「パッケージのマージ」(100ページ)
- •「新規パッケージグループの作成」(102ページ)
- 「パッケージグループの編集」(104ページ)
- 「パッケージの削除」(106ページ)
- •「パッケージ明細のキャンセル」(106ページ)

HP Deployment Managementでのパッケージの管理

HP Deployment Managementでパッケージを送信した後は、パッケージの処理と管理を行うことができます。パッケージの管理では、パッケージのコピー、マージ、グループ化、編集、削除、パッケージグループの変更、パッケージ明細のキャンセルを行います。次の各セクションでは、パッケージのコピー以外のすべてのタスクについて説明します。パッケージのコピー手順については、「既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成」(46ページ)を参照してください。

パッケージのマージ

2つ以上の既存のパッケージをマージすることで、新しいパッケージを生成できます。この方法は、複数の パッケージ内にある特定のパッケージ明細で構成される単一パッケージを生成する場合に役立ちます。

2つのパッケージをマージするには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center/こログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショート カット バーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [**クエリ**] タブで、[**リスト**] をクリックします。

[結果]タブに、既存のパッケージがすべて表示されます。

5. マージするパッケージを選択します。

隣接しない行を選択するには、[Ctrl] キーを使用します。隣接する行を選択するには、[Shift] キーを使用します。

@)/(·	ッケージ Workt	bench				- 0
E	バッケージ	説明	ワークフロー	バッケージ グ	パッケージステ	優先
H	30022		xyz		進行中	低
<u> </u>	30021		xyz		進行中	低
栗	30020		(REFERENCE) 開発->テスト		新規	低
二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	30017	test	(REFERENCE) 開発->テスト		進行中	低
	30016	sample	(REFERENCE) 開発->テスト		進行中	低
	30015	path test	(REFERENCE) 開発->テスト		進行中	低
	4					
		新規開	(コピー 削除 り)	בליטד 🔤 די	j	
	6 件のレコードが	読み込まれました。				

6. [結果] タブで [マージ] をクリックします。

[パッケージのマージ] ウィンドウで [オプション] タブが表示されます。

🕼 パッケージのマージ						×
マージされたパッケー	ジ情報					
ヘッダーのコピー元:	30017	▼ #	観バッケージ番	号: 30024		
記印 :	コピー~	30017,300)15			
ワークフロー:	(REFERE	NCE)開発	ἕ->テスト->本番			
オブション 詳細						
バッケージ明紙	Iをコピー	⊙ itu	○ いいえ	ヘッダーのノー	-トをコピー Olt(い Cいいえ
クローズした明紙	1をコピー	⊙ itu	○ いいえ	ヘッダーのユーザ デー	-タをコピー 💿 はい	い ぐいいえ
キャンセルした明純	Bをコビー	⊖ itu	○ いいえ	新規バック	「ージを送信 〇 はい	.) ○ いいえ
,						
					01	く キャンセル
読み込みが完了しました	i.					

- 7. [新規パッケージ番号] フィールドで、生成されたパッケージ番号をそのまま使用するか、別の一意の パッケージ番号を入力します。
- 8. [**ワークフロー**] フィールドで、デフォルトのワークフロー名 をそのまま使用するか、オートコンプリートリスト で別の名前を選択します。
- 9. [オプション] タブで、表示されているオプションに対して [はい] か[いいえ]を選択します。
- 10. [OK]をクリックします。

パッケージWorkbenchにより、新しい (マージした) パッケージを編集 するかどうかを指定 するよう求められます。

11. パッケージを編集するには、[はい]をクリックします。パッケージを保存して閉じるには、[いいえ]をクリックします。

新規パッケージグループの作成

ー 般 的に、トラッキングとレポートを目 的として、新しいパッケージをパッケージグループにリンクすると便利 です。パッケージをパッケージグループにリンクすると、パッケージの検索 やカスタムポートレットの作成にパッ ケージグループを使用できます。パッケージWorkbenchから、新しいパッケージグループを作成します。

パッケージグループを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [パッケージ] メニューから、[新規パッケージグループ]を選択します。

ファイル 編集 ツール	ナビク	デート ウィンドウ	バッケージ 幕	製品情報			
Demand Management	$\phi_{\mathcal{N}}$	ッケージ Workbench	バッケージ	の明細のキャンセル			
Deployment Management	E	パッケージ 詳細	パッケージ	の送信			
Time Mgmt	7 H	パッケージ番号:	新規パッケ	ージ グループ	クエリ:	なし	-
ダッシュボード	₩	ワークフロー: [マージ		パッケージ ステータス:	বৃশ্ব	
環境		 アサインズわたっ ーザ・	I.	作成者	值牛 e-	オペア	
構成					18-5-35 5/-9		
システム管理者		//////////////////////////////////////	E	37919F917:	199 - 7 91 7:	ا ۱۷۹	

[検証: PPM パッケージとリクエストグループ] ウィンド ウが開き、パッケージとリクエストの既存 グループが 表示されます。

Ø 検証:PPM − パッケージとリクエスト グループ 🛛 🔀
名前: パッケージとリクエスト グループ 参照コード: PM_PACKAGE_AND_REQUEST_C
説明: パッケージおよびリクエストのグループ化
有効: 🔽 ワークフローで使用 🔽
<mark>コンポーネントタイプ:</mark> ドロップ ダウン リスト
検証: リスト
検証値:
2 SETUP セットセット
<u>3UPGRADE アップ アップ Y いい</u>
新規 編集 削除 コピー元 全 🗣
準備完了

5. [新規]をクリックします。

🕼 検証値の追加	x
値情報】ユーザデータ】	
意味:	
i 关8月:	
有効 🔽	デフォルド 🗖
	OK 追加 キャンセル
(#/#字7)	
JF羊/順元」	

[検証値の追加] ウィンドウで [値情報] タブが表示されます。

- 6. [コード] フィールドで、[パッケージグループ] リストの新しい項目のトークン名を入力します。
- 7. [意図] フィールドで、[パッケージグループ] リストのこの項目に表示する名前を入力します。
- 8. [説明] フィールドに、パッケージの簡単な説明を入力します。
- 9. 新しいリスト値を向こうにするには、[有効]チェックボックスをクリアします。
- 10. この値が[パッケージグループ] リストでデフォルトで選択されるようにするには、[デフォルト] チェックボックスを選択します。
- 11. [OK]をクリックします。

パッケージグループの編集

PPM Workbenchから、既存のパッケージグループを編集できます。[PPMパッケージとリクエストグループの検証] リストを変更できるのは、必要なアクセス許可とセキュリティ権限がある場合のみです。HP Deployment Managementでパッケージを操作するために必要なライセンスとアクセス許可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

パッケージグループを追加または編集する前に、アプリケーション管理者に相談してください。通常、パッケージグループの生成は、特定のビジネスアプリケーション基準に沿って行われます。

パッケージグループを編集するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [パッケージ] > [新規パッケージグループ]を選択します。

[検証: PPM - パッケージとリクエスト グループ] ウィンド ウが開き、既存のパッケージグループが表示されます。

5. 変更するパッケージグループを選択して、[編集]をクリックします。

[検証値の編集] ウィンドウが開きます。

🕼 検証値の編集	×
値情報 ユーザデータ	
意味 セットアップ	
説明: セットアップ	
有効 🔽	デフォルド 🗖
	OK 適用 キャンセル
準備完了	

6. 必要に応じてフィールドの値を編集し、[OK]をクリックします。

新しい検証が[検証: PPM - パッケージとリクエスト グループ] ウィンド ウに追加されます。

7. [OK] をクリックします。

HP Deployment Managementユーザーガイド 第5章: パッケージの管理

パッケージの削除

パッケージWorkbenchからパッケージを削除できます。

パッケージを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。
 パッケージWorkbenchが開きます。
- 4. すべてのパッケージのリストを表示するには、[クエリ]タブで[リスト]をクリックします。

[結果] タブにパッケージリストが表示されます。

5. 削除するパッケージを選択して、[削除]をクリックします。

注: 隣接しない行を選択するには、[Ctrl] キーを押したまま選択します。 隣接する行を選択するには、[Shift] キーを押したまま選択します。

パッケージWorkbenchにより、パッケージの削除を確認するよう求められます。

6. [**はい**] をクリックします。

パッケージ明細のキャンセル

場合によっては、ファイルが古かったり不要になったりして、パッケージ明細をキャンセルすることがあります。 パッケージ明細をキャンセルするには、パッケージWorkbenchを使用します。

パッケージ明細をキャンセルするには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [Workbenchを開く] を選択します。

PPM Workbenchが開きます。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. すべてのパッケージのリストを表示するには、[クエリ]タブで[リスト]をクリックします。

[結果] タブにリストが表示されます。

5. キャンセルする明細を含むパッケージを選択し、[開く]をクリックします。

[パッケージ] ウィンド ウが開きます。

- 6. [パッケージ明細] タブで、キャンセルするパッケージ明細を選択します。
- 7. メニューバーから[パッケージ]>[パッケージの明細のキャンセル]を選択します。



ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡く ださい。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の 情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on HP Deployment Management User's Guide (Project and Portfolio Management Center 9.30)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規 メッセージに貼り付け、HPSW-BTO-PPM-SHIE@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。